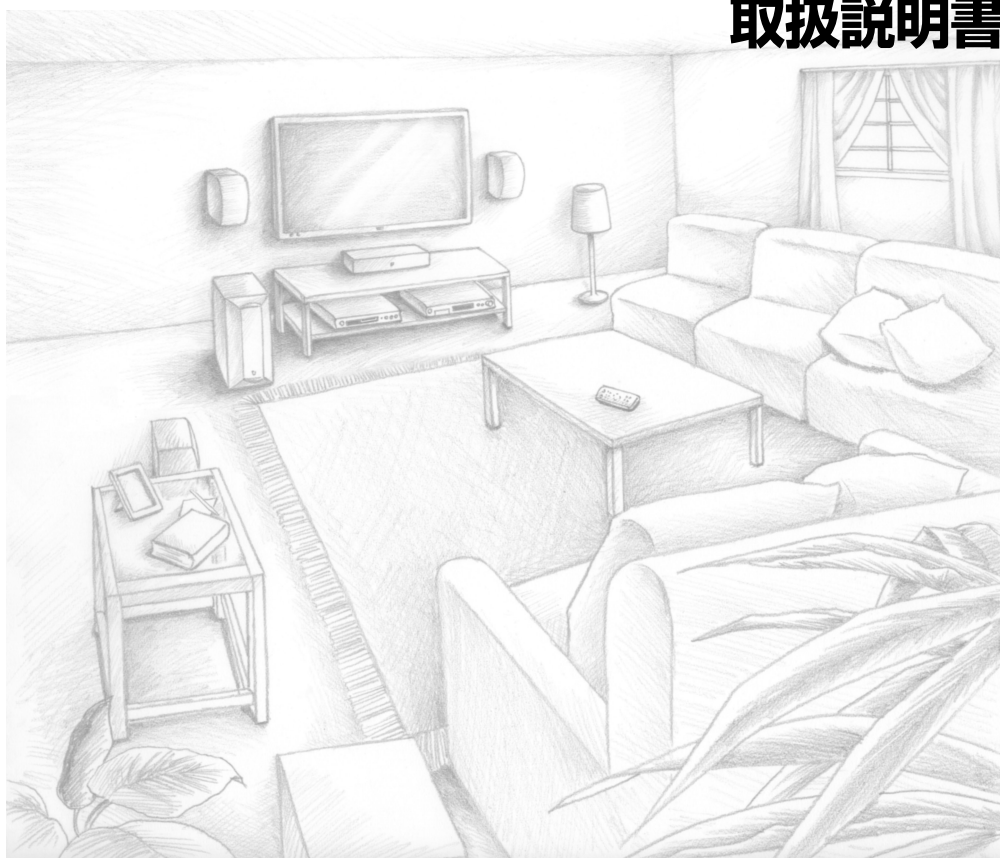
DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

RX-SL80

取扱説明書

ヤマハ DSP AVアンプRX-SL80をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を正しく安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば⚠は「感電注意」を示しています。

してはいけない行為を表しています。
たとえば🚫は「分解禁止」を示しています。

必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
- 異常なにおいや音がする。 • 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

禁止

電源コードを傷つけない。
- 重いものを上に載せない。 • ステープルで止めない。 • 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。 • 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- 浴室・台所・海岸・水辺 • 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水滴の混入により火災や感電の原因となります。

接触禁止

雷がなりはじめたらアンテナや電源プラグには触れない。

感電の原因となります。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

禁止

放熱のため本機を設置する際には：
- 布やテーブルクロスをかけない。 • じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- あおむけや横倒しには設置しない。 • 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

必ず行う

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

禁止

本機にものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

移動をするときには、本機(または接続機器)の電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

- 機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴力障害の原因となることがあります。

電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。

注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。

必ず行う

電源プラグは確実にコンセントに根もとまで差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

必ず行う

屋外アンテナ工事には、技術と経験が必要です。販売店にご依頼ください。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

本機の電源を切っても(電源コードをコンセントから抜いた状態)、選択した入力ソース、音量、セットメニューの設定、プリセットされた放送局などは本機に記憶されています。ただし、電源を切った状態が1週間以上続くと、記憶内容が消去されることがあります。そのような場合はもう一度設定しなおしてください。

- セットメニューの各種設定(→P.58)
- 登録した放送局(→P.39)
- 音場プログラムの設定
  入力ごとに選んだ音場プログラム(→P.37)
  パラメーターの設定(→P.67)

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

DOLBY DIGITAL PRO LOGIC II

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブルD記号DDは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts 96/24

DTSおよびDTS96/24はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

SILENT ™
CINEMA

「サイレントシネマ／SILENT CINEMA」は、ヤマハ株式会社の登録商標です。

AACロゴマークはドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

目次

そのほかの情報

はじめに

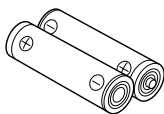
本書の記載について

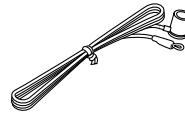
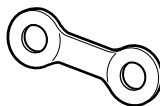
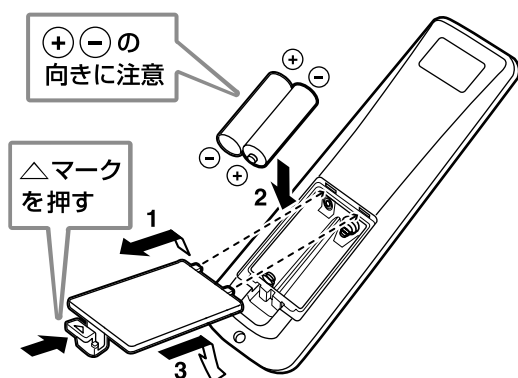
- ヒント は操作上の補足的な説明や知っておくと便利な事項を示します。
- ご注意 は、操作上必ず行っていただきたいポイントを示します。
- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- 本取扱説明書は製品開発に先がけ印刷されております。その後、操作性の向上、そのほかの理由により、製品仕様の一部が変更となることがあります。その場合は製品自体の仕様が優先されます。
- 説明の便宜上、文中のイラストや名称等が実際の製品や梱包箱等と異なる場合があります。

付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

リモコン

単3乾電池（2本）

AMループアンテナ

FM簡易アンテナ

ケーブルタグ
（赤×2、白×2、緑×2、
灰×2、青×2）

リモコンに電池を入れる

1. 裏ぶたの△マークを押しながら裏ぶたを取り外す。
2. 付属の単3乾電池(2本)を、+と−の向きに注意してリモコンの電池ケースに入れる。
3. 裏ぶたを閉じる。

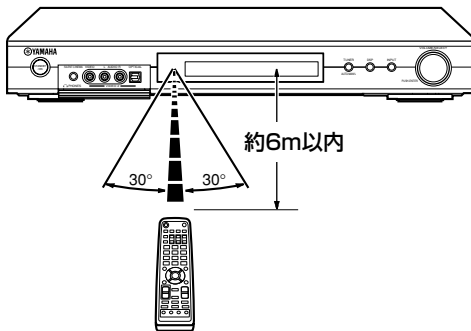
リモコンの乾電池についてのご注意

- 乾電池が消耗すると、リモコンを操作できる距離が極端に短くなったり、キーを押しても本機の操作ができなくなったりします。このような場合は、すべて新しい乾電池に交換してください。
- 新しい乾電池と、一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して廃棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 使い切った電池はただちにリモコンから取り出してください。リモコンに挿入したままにしておくと、破裂や液漏れの原因となります。
- 使い切った電池は地域の条例または取り決めに従って廃棄してください。

注 意

- 電池を外したまましばらく(2分以上)放置したり、消耗した乾電池をリモコンにそのまま入れておくと、リモコンに設定したリモコンコードなどのメモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、リモコンコードを設定してください。→P.74「リモコンを使いこなす」

リモコンの使用範囲

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

リモコンの取り扱いについてのご注意

- 水やお茶をこぼしたりしないでください。
- リモコンを落とさないでください。
- 下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。
  ーストーブのそばや風呂場など、温度･湿度の高いところ。
  ーほこりの多いところ。
  ー極端に寒いところ。

各部の名称とはたらき

前面

TUNER（AUTO/MAN'L）キー（チューナー　オート　マニュアル）
入力がTUNERのときに使えます。
手動（マニュアル）選局または自動（オート）選局を選択します。また、プリセット局の番号を選ぶときにも使います。（→P.38）

PHONES（SILENT CINEMA）端子（フォンズ　サイレント　シネマ）
ヘッドホンを接続します。音場プログラムを選択すると「サイレントシネマ」で音声を楽しめます。（→P.55）

INPUTキー（インプット）
ソースを選ぶ：INPUTキーを押し、再生したいソースが表示されるまでVOLUME/SELECTつまみを回してください。（→P.32）
入力モードを選ぶ：同じ機器をデジタル音声入力端子と音声入力端子（アナログ）に接続している場合に、入力信号の優先順位を設定できます。（→P.69）

VIDEO 2端子（ビデオ）
ゲーム機やビデオカメラレコーダーなどを接続する予備入力端子です。（→P.20）
入力するには、リモコンのVIDEO 2キーを押して「VIDEO 2」を表示させます。本体のINPUTキーを押してからVOLUME/SELECTつまみを回しても選べます。

STANDBY/ONスイッチ（スタンバイ　オン）
本機の電源の入／待機（スタンバイ）を切り替えます。
電源を入れて数秒間は音が出ません。
スタンバイ状態のときは、リモコンからの赤外線信号を受信するために少量の電力を消費します。

ディスプレイ
プログラムの名称や設定値、再生時の情報などを表示します。（→P.15）

DSPキー（ディーエスピー）
音場プログラムを選択する：DSPキーを押し、お好みの音場プログラムが表示されるまでVOLUME/SELECTつまみを回してください。（→P.37）
音場オフ「STRAIGHT」再生にする：DSPキーを押してSTRAIGHTを表示させます。（→P.54）

リモコン受光部
リモコンからの信号を受信します。

VOLUME/SELECTつまみ（ボリューム　セレクト）
音量を調節する：全体の音量を調節します。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。
音色を調節する：フロントL/Rスピーカーやヘッドホンから出力される音声の音色を調節します。（→P.33）
次のキーを押すとVOLUME/SELECTつまみの機能が切り替わります。
TUNER（AUTO/MAN'L）キー： 入力がTUNERのときにFM／AM放送局を選局できます。
DSPキー： お好みの音場プログラムを選べます。
INPUTキー： 再生したい入力ソースを選べます。

リモコン

リモコンで本機を操作するときは、はじめにAMPキーを押してアンプ操作モードにしてください。下の図の中で □ はAMPキーを押さなくても操作できるキーを示し、□ はTUNER入力のときに操作できるキーを示しています。

ヒント

- リモコン上の名称が青色で表示されているキーは、アンプ操作モードのときの操作キーです。

ディスプレイ

入力ソース表示
入力しているソース表示の ＿＿」が点灯します。
チューンド
TUNED表示
FM／AM放送を受信すると点灯します。
ステレオ
STEREO表示
AUTO表示が点灯しているときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると点灯します。
ボリューム
VOLUME表示
現在の音量を表示します。音量が大きくなるにつれて右側に表示が増えていきます。
ナイト
NIGHT表示
ナイトリスニングモードのときに点灯します。
ヘッドホン表示
ヘッドホン端子にヘッドホンを接続すると点灯します。
デコーダー表示
本機内蔵のデコーダーが働くと、そのデコーダー表示が点灯します。
ミュート
MUTE表示
MUTEキーを押して、音量を下げている間点滅します。
シネマ ディーエスピー
CINEMA DSP表示
CINEMA DSP音場プログラムを選ぶと点灯します。
ハイファイ ディーエスピー
HiFi DSP表示
HiFi DSP音場プログラムを選ぶと点灯します。
dts MATRIX DISCRETE
DIGITAL
AAC
PCM
PL
VIRTUAL
PL II
NIGTHT
SILENT
CINEMA DSP
VCR
VIDEO 1
VIDEO 2
DTV/CBL
DVD/CD
TUNER
HiFi DSP
STEREO TUNED
VOLUME
MUTE SLEEP
AUTO MEMORY
DUAL
L C R
LFE
SL SB SR
ft
ms
dB
サイレント シネマ
「SILENT CINEMA」表示
ヘッドホンで音場プログラムが楽しめる、「サイレントシネマ」のときに点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイ
音場プログラム名や各種設定値、放送局の周波数やプリセット番号を表示します。
バーチャル
VIRTUAL表示
バーチャルシネマDSPにすると点灯します。
オート
AUTO表示
チューナーモードのオート選局やオートプリセットのとき点灯します。
ピーシーエム
PCM表示
CDなどのPCM信号の再生中に点灯します。
デュアル
DUAL表示
BSデジタル放送などで使われる、モノラル二重音声を出力するときに点灯します。
エルエフイー
LFE表示
入力信号にLFEが含まれているときに点灯します。
入力信号チャンネル表示
再生ソースのデジタル信号に含まれる音声チャンネルに対応した表示が点灯します。
メモリー
MEMORY表示
FM／AM放送局を登録（プリセット）するときに点滅します。
スリープ
SLEEP表示
スリープタイマーをセットすると点灯します。

スピーカーを設置する

音場効果を十分に味わうために、スピーカーを適切な位置に設置し、本機と確実に接続してください。

スピーカーの設置場所を決める

スピーカーは次のように配置してください。

センタースピーカー

左右のフロントスピーカーの中間に設置します。テレビ(モニター)の上や下など、できるだけテレビ(モニター)画面に近い場所に設置します。画面の中央線上の位置に、画面とスピーカーの前面をそろえて設置するとより理想的です。

センタースピーカーからは会話やボーカルなどのセンターチャンネルの音声が出力されます。

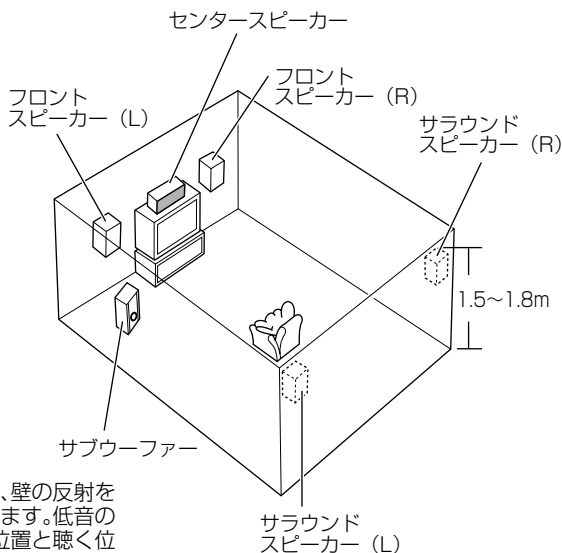
フロントL／R スピーカー

左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。両スピーカーの中央にテレビ(モニター)がくるように設置してください。

フロントL／Rスピーカーからはフロントチャンネルの音声(ステレオ音声)と効果音が出力されます。

サブウーファー

前方左右どちらかの壁面寄りで、壁の反射を防ぐために少し内向きに設置します。低音の聞こえ方は、スピーカーを置く位置と聴く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

サブウーファーは低音域の音響効果を向上させます。低音を強調するだけでなく、ドルビーデジタル、DTSやAACに含まれるLFE信号を正確に再現することができます。

サラウンドL／R スピーカー

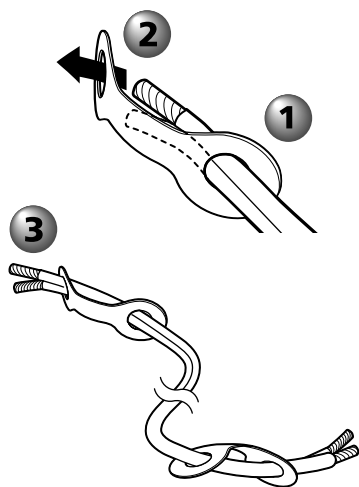
視聴位置の斜め後方で、視聴するときの耳の高さ(壁にかける場合、高さ約1.5〜1.8mの位置)に設置するのが理想的です。

サラウンドスピーカーからはサラウンドと効果音が出力されます。

スピーカーを接続する

ケーブルタグを取り付ける

接続の前に付属のケーブルタグをスピーカーケーブルの両端に取り付けておくと、ケーブルの配線がわかりやすく大変便利です。
スピーカーケーブルを適切な長さに切断したあと、スピーカー端子と同じ色のタグを各スピーカーケーブルに取り付けてください。

ケーブルタグの色	スピーカーケーブル
赤	フロント右
白	フロント左
緑	センター
灰	サラウンド右
青	サラウンド左

1 **ケーブルタグの片方の穴にスピーカーケーブルを通す。**

2 **もう片方の穴にもスピーカーケーブルを通す。**

3 **手順 ①、② にしたがい、スピーカーケーブルのもう一方の端にも同じ色のタグを取り付ける。**
すべてのスピーカーケーブルにタグを取り付けてください。

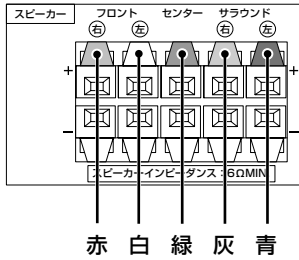
ヒント

- 各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声など(音色)が不自然に変化することがあります。できるだけ、メーカーや音色の揃ったスピーカーの使用をおすすめします。
  同一メーカーが同じ時期に販売しているシリーズのスピーカーで、スピーカーシステムを揃えることをおすすめします。
- スピーカーインピーダンスが6Ω以上のスピーカーをお使いください。
- スピーカーは防磁型スピーカーをお使いください。防磁型以外のスピーカーを使用すると、テレビ(モニター)に映る映像が乱れることがあります。特に画面近くに設置する必要のあるセンタースピーカーやサブウーファーには、防磁型スピーカーのご使用をおすすめします。
- 防磁型スピーカーをお使いの場合でもテレビ(モニター)の映像が乱れるときは、スピーカーをテレビ(モニター)と離して設置してください。

注 意

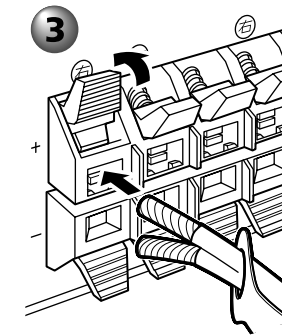
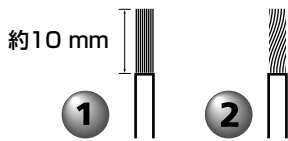
- 5スピーカーシステムでお使いにならないときは、お使いになるスピーカーにあわせて、アンプの出力設定を変更してください。→**P.30「部屋の大きさやスピーカーシステムにあわせて出力設定する－Speaker Set Up(スピーカー設定)」、P.60「音声出力を設定する－SOUND MENU(音声設定)」**

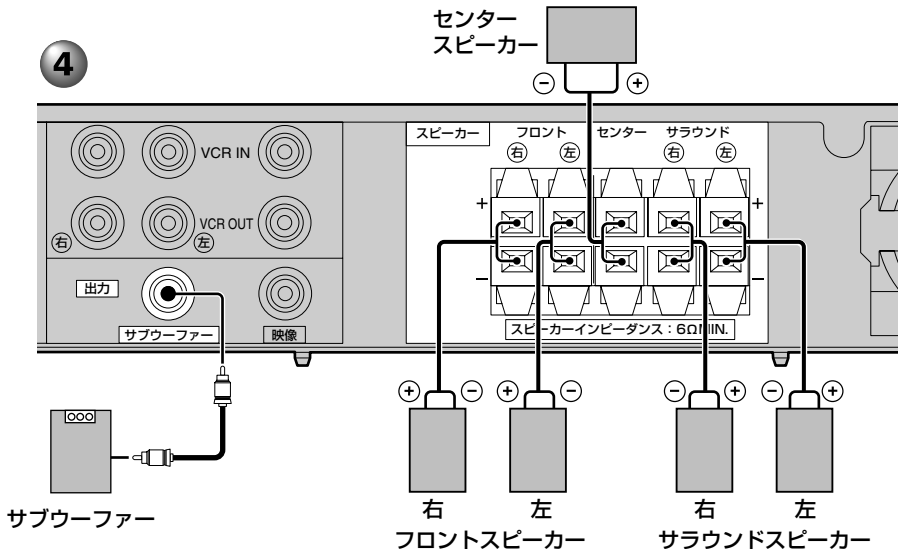
本機とスピーカーケーブルを接続する

スピーカー端子のつまみの色

本機のスピーカー端子の＋側つまみは、5色に色分けされています。取り付けたケーブルタグとつまみの色が合うようにスピーカーケーブルを接続します。
右チャンネル、左チャンネル、「＋」、「−」を確認して正しく接続してください。極性（＋、−）を間違えて接続すると不自然な再生音になります。

- スピーカーやすべての機器の接続が終わるまで、電源コードをACコンセントに接続しないでください。

重要

- スピーカーケーブルを接続する場合、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、本機の保護回路が働いて自動的にスタンバイ状態になりますが、故障の原因になる恐れがあります。
- 接続するスピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が働いたり、故障する恐れがあります。

一般的にスピーカーケーブルは、平行した2本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの1本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。

1. **スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を約10mmぐらいはがす。**
2. **芯線をしっかりとよじる。**
   しっかりよじらないと、ショート（接触）の原因になります。
3. **つまみを押さえながら、芯線を穴に差し込む。**
   指を離すとつまみが戻り、芯線が固定されます。
4. **お使いになるすべてのスピーカーをスピーカー端子に正しく接続する。**

再生機器や録音・録画機器を接続する

接続をはじめる前に

接続に関しての注意

- 接続する前に、本機および接続する機器の電源コードがACコンセントに接続されていないことを確認してください。
- 右チャンネル、左チャンネル、入力(IN)、出力(OUT)などを確認して正しく接続してください。接続する機器によっては接続方法や端子の名前が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 端子名は入力選択キーに対応しています。

デジタル端子の接続

本機は、同軸ケーブルや光ファイバーケーブル経由で、デジタル信号を直接伝送できるデジタル端子(同軸入力または光入力)を装備しています。デジタル端子はPCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC兼用です。本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数32kHzの衛星放送Aモードからを CDやMDディスクの44.1kHz、衛星放送BモードとDVDディスクの48kHzに対応しています。また、DVDディスクの96kHzにも対応しています。

注意

- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しているため、デジタル音声端子から入力した信号はアナログ出力端子(VCR OUT)には出力されません。
- 本機の光入力端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。

再生機器を接続する

接続に使うケーブル

→ 信号の流れ

DVD/CDプレーヤー

光デジタル出力

音声出力

映像出力

衛星放送／CATVチューナー

光デジタル出力

音声出力

映像出力

AM GND FM

75Ω

アンテナ

デジタル音声

光入力

同軸入力

① DVD/CD ② DTV/CBL ③ VIDEO 1

DVD/CD

DTV/CBL

VIDEO 1

右 左

音声

映像

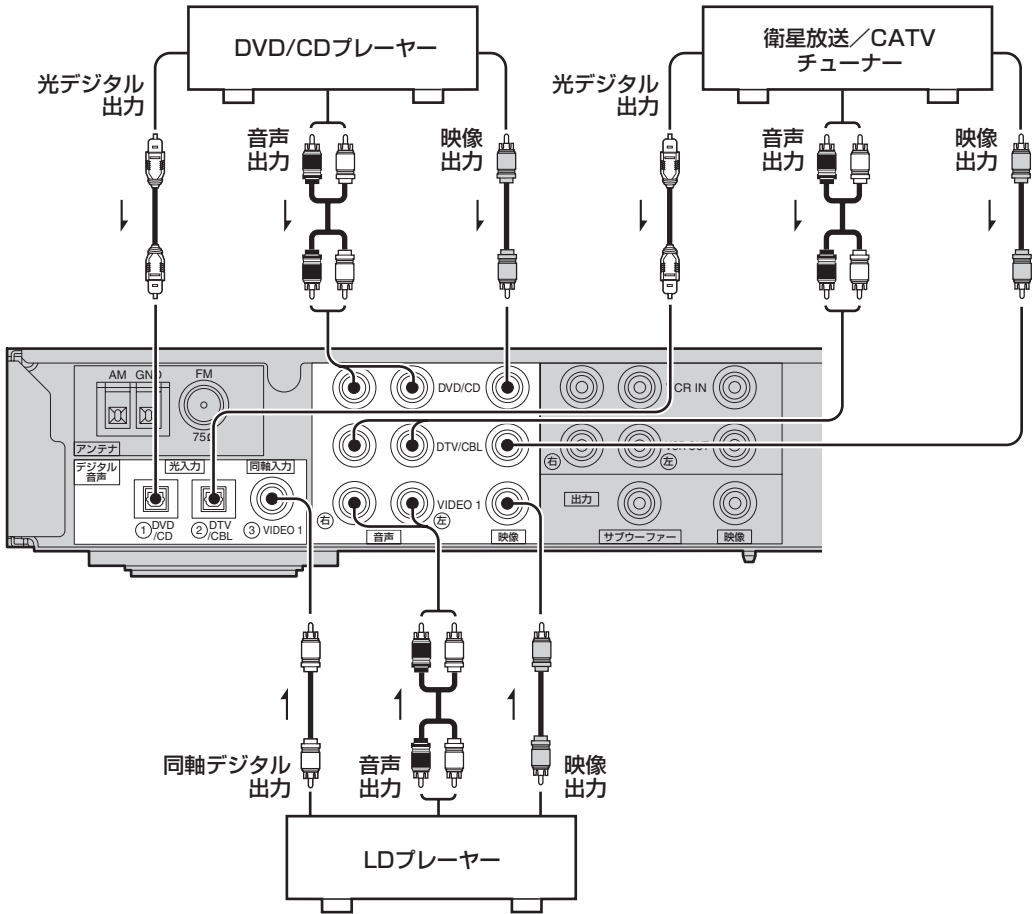
VCR IN

出力

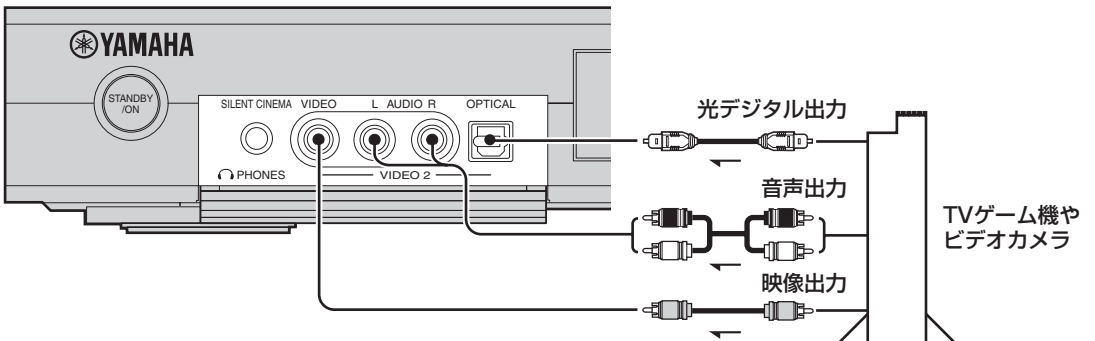
サブウーファー

映像

同軸デジタル出力

音声出力

映像出力

LDプレーヤー

前面

DVD/CDプレーヤーを接続する

DVD/CDプレーヤーの光デジタル出力端子をDVD/CD光入力端子に接続します。また、DVDプレーヤーの映像出力端子をDVD/CD映像入力端子に接続します。

ヒント

- DVDプレーヤーに光デジタル出力端子がない場合は、同軸デジタル出力端子を同軸入力端子に接続します。この場合は、INPUTメニューの「INPUT ASSIGN」で、接続した端子の割り当てを変更してください。（→P.65）
- デジタル出力端子がない場合は、音声出力端子をDVD/CD音声入力端子に接続します。

衛星放送／CATVチューナーを接続する

衛星放送／CATVチューナーの光デジタル出力端子をDTV/CBL光入力端子に接続します。また、衛星放送／CATVチューナーの映像出力端子をDTV/CBL映像入力端子に接続します。

ヒント

- 衛星放送／CATVチューナーに光デジタル出力端子がない場合は、音声出力端子をDTV/CBL音声入力端子に接続します。

LDプレーヤーを接続する

LDプレーヤーの同軸デジタル出力端子をVIDEO 1同軸入力端子に接続します。また、LDプレーヤーの映像出力端子をVIDEO 1映像入力端子に接続します。

ヒント

- LDプレーヤーに同軸デジタル出力端子がない場合は、音声出力端子をVIDEO 1音声入力端子に接続します。
- ドルビーデジタルRF出力端子がある場合は、市販のRFデモジュレーターに接続してから、空いている光デジタル入力または同軸デジタル入力端子に接続します。

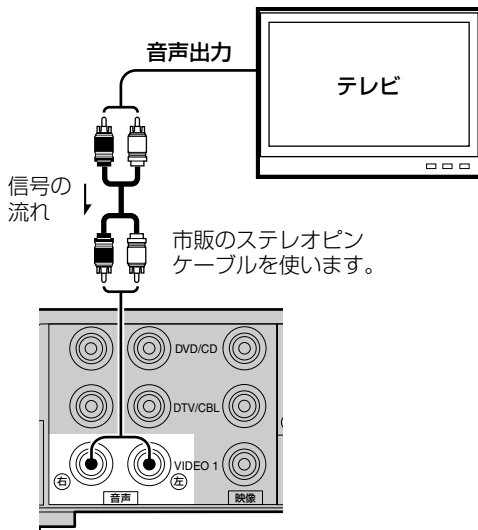
TVゲーム機やビデオカメラを接続する

TVゲーム機やビデオカメラの光デジタル出力端子を本機の前面にあるVIDEO 2のOPTICAL端子に接続します。また、TVゲーム機やビデオカメラの映像出力端子をVIDEO 2のVIDEO端子に接続します。

ヒント

- ゲーム機に光デジタル出力端子がない場合は、音声出力端子をVIDEO 2のAUDIO端子に接続します。

テレビの音声出力を接続する

本機に接続したスピーカーでテレビ番組の音声を楽しめます。テレビの音声出力端子を本機の音声入力端子に接続してください。入力選択キーを押してテレビを接続した入力を選ぶと、テレビの音声が本機に接続したスピーカーから聞こえます。テレビの音声を音場プログラムでもお楽しみいただけます。

録音・録画機器、テレビ（モニター）を接続する

録画機器（映像系）または録音機器（音楽系）のどちらかを接続できます。

→ 信号の流れ

録画機器

DVDレコーダーや
ビデオデッキ

音声
出力

映像
出力

音声
入力

映像
入力

AM GND FM
75Ω
アンテナ
デジタル音声 光入力 同軸入力
①DVD/CD ②DTV/CBL ③VIDEO 1
DVD/CD
DTV/CBL
VIDEO 1
右 左
音声 映像
VCR IN
VCR OUT
出力 サブウーファー
映像

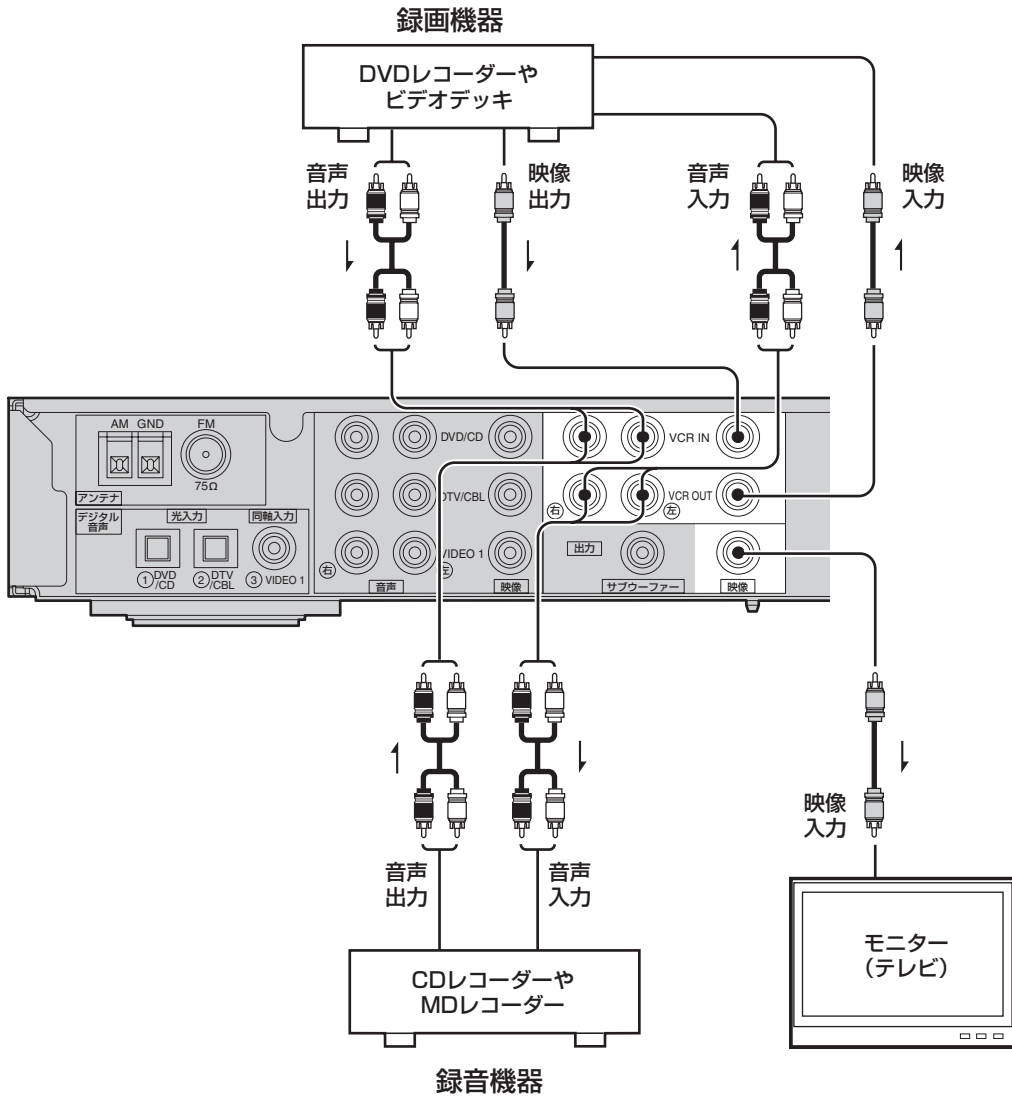
音声
出力

音声
入力

映像
入力

CDレコーダーや
MDレコーダー

録音機器

モニター
（テレビ）

ビデオデッキやDVDレコーダーを接続する

ビデオデッキやDVDレコーダーの音声出力端子をVCR IN音声入力端子に接続します。また、ビデオデッキやDVDレコーダーの映像出力端子をVCR IN映像入力端子に接続します。
録画する場合は、ビデオデッキ／DVDレコーダーの音声入力端子をVCR OUT音声出力端子に接続します。また、ビデオデッキやDVDレコーダーの映像入力端子をVCR OUT映像出力端子に接続します。

MDレコーダーやCDレコーダーを接続する

MD／CDレコーダーの音声出力端子をVCR IN音声入力端子に接続します。
MD／CDレコーダーの音声入力端子をVCR OUT音声出力端子に接続します。

テレビ（モニター）を接続する

テレビ（モニター）の映像入力端子を映像出力端子に接続します。

ヒント

- 高音質のデジタル音声で楽しみたいときは、DVDレコーダーやCD／MDレコーダーの光デジタル出力または同軸デジタル出力端子を空いている光デジタル入力または同軸デジタル入力端子に接続します。この場合は、INPUTメニューの「INPUT ASSIGN」で、接続した端子の割り当てを「VCR」に変更してください。（→P.65）

注 意

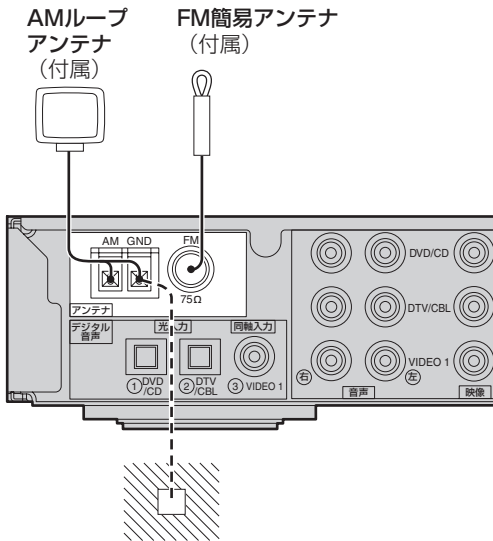
- カセットデッキを接続する場合もCDレコーダーなどと同様に、音声出力端子と音声入力端子を接続します。
- 本機に録音･録画機器を接続している場合、本機の使用中は録音･録画機器の電源を入れたままにしてください。録音･録画機器の電源が切れていると、本機の音が歪むことがあります。

アンテナを接続する

本機にはAMループアンテナとFM簡易アンテナが付属しています。電波を良好に受信できる地域では付属のアンテナをお使いください。

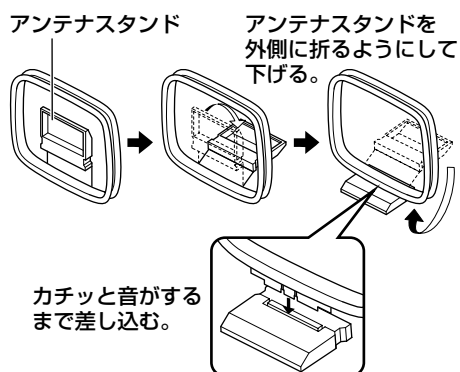
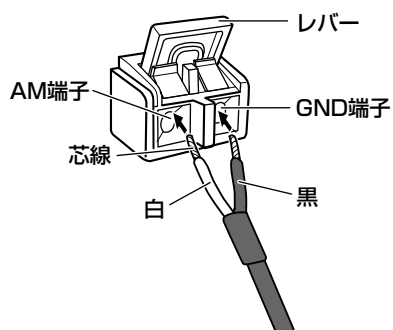
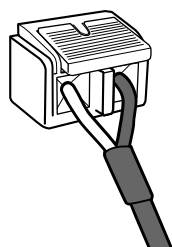
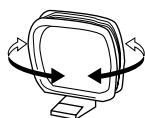
各アンテナを端子に正しく接続してください。

FM簡易アンテナを接続する

付属のFM簡易アンテナをFM端子に接続してください。

アース（GND端子）
GND端子は安全アースではありません。雑音が多いときに、接続すると雑音を低減することができます。アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

FM屋外アンテナを接続するときは

アンテナの同軸ケーブルを市販のF型コネクターを使って、FM端子に接続します。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

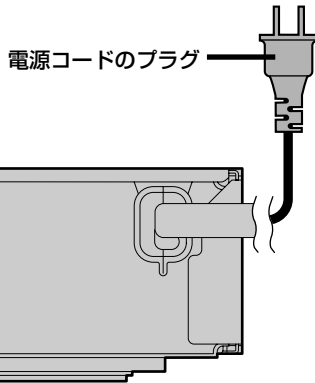
AMループアンテナを接続する

1 アンテナをアンテナスタンドに取り付ける。

2 AM端子とGND端子のレバーを上に開け、白いコードの芯線をAM端子に、黒いコードの芯線をGND端子に差し込む。

3 レバーを戻して、コードを固定する。
コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。

4 アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向ける。

ヒント
- 放送を良好に受信するためには、屋外アンテナを設置することをお勧めします。詳しくは、最寄りのヤマハ電気音響製品のサービス拠点にお問い合わせください。

注 意
- FM簡易アンテナやAMループアンテナは、本機やスピーカーケーブルから離して設置してください。
- AM屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは必ず接続しておいてください。

電源コードを接続する

電源コードのプラグ

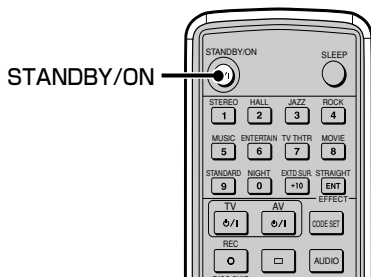
すべての接続が終了したら、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源コードのプラグを接続します。

ヒント

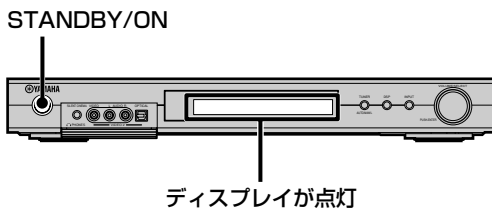
- 接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

電源を入れる

ここまでのすべての準備が終わったら、本機の電源を入れます。

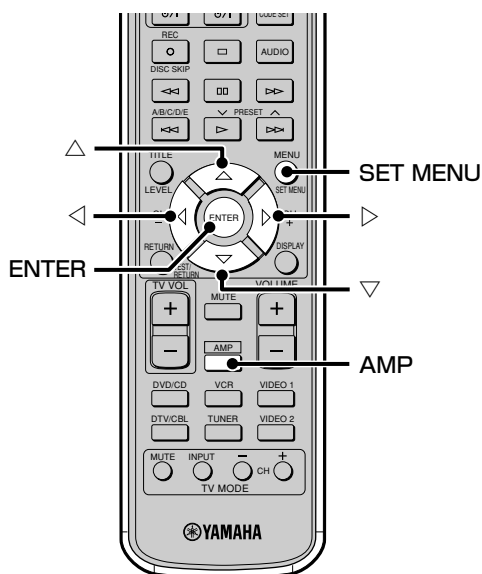
STANDBY/ON

STANDBY/ON

ディスプレイが点灯

STANDBY/ONキーを押す。
本機の電源が入り、ディスプレイが点灯します。

再生の前に行う設定ーBASIC SETUP(基本設定)

スピーカーの本数、サブウーファーの有無、お部屋のサイズなど、お使いになる条件を簡単に設定するだけで本機の音場プログラムの効果を最大限に引き出すことができます。ソースを再生する前にセットメニュー(SET MENU)の中のBASIC SETUPを使ってリスニング環境を設定してください。

さらにMANUAL SETUPを使ってリスニング環境を細かく設定することができます。

操作手順

リモコンで操作します。
セットメニューはテレビ画面にも表示されます。テレビ画面で確認しながら操作すると、より簡単に設定できます。各メニューの名称はテレビ画面に表示される名称で説明していますので、本機ディスプレイに表示される名称とは若干異なります。

SET MENU
・BASIC SETUP
→ ・MANUAL SETUP
[▲]/[▼]:Up/Down
[ENTER]:Enter

注 意

- 設定するときは、ヘッドホンを抜いてください。

1 **AMPキーを押す。**

2 **SET MENUキーを押す。**

3 **△または▽キーを押して「BASIC SETUP(基本設定)」を選ぶ。**

4 **ENTERキーを押す。**
BASICメニューの設定モードに入ります。

5 **△または▽キーを押して、設定したい項目を選ぶ。**

6 **◁または▷キーで設定を変更する。**
「操作の流れ」(→P.29)にしたがって設定してください。

7 **SET MENUキーを押してセットメニューを終了する。**

ヒント
TEST/RETURNキーで1つ上のMENU階層にもどります。

操作の流れ

BASIC SETUP (BASIC MENU)　MANUAL SETUP (SOUND/INPUT/OPTION MENU)

BASICメニュー（基本設定）には「Speaker Set Up（スピーカー設定）」と「Speaker Level（スピーカー出力レベル）」の2つの項目があり、下記の流れにしたがって設定するだけで美しいヤマハサウンドをお手軽にお楽しみいただけます。詳しい設定内容については**「部屋の大きさやスピーカーシステムにあわせて出力設定するーSpeaker Set Up（スピーカー設定）」（→P.30）**または**「スピーカーの音声出力レベルを調節するーSpeaker Level（スピーカー出力レベル）」（→P.31）**をご覧ください。

注 意

- MANUAL SETUP（SOUNDメニュー）の中には、BASICメニューを設定することにより無効になる項目があります。あやまってBASICメニューに入った場合はCANCELを選ぶか、SETを選んだあとでSOUNDメニューを設定しなおしてください。

Speaker Set Up（スピーカー設定）
お部屋の広さや使用するスピーカーの数などを設定します。

① **ROOM（部屋の大きさ設定）**
S（小）、M（中）、L（大）から選びます。

② **SWFR（サブウーファー設定）**
YES（あり）、NONE（なし）から選びます。

③ **SPEAKERS（スピーカーの本数）**
2、3、4、5、spk（本）から選びます。

④ **SET（設定確認）**
①～③の設定内容を確認してください。
SET（設定）：① ② ③ の設定を基に、適した出力設定をします。
CANCEL（無効）：設定を無効にして、やりなおします。

SET

CHECK : Test Tone
テストトーンが流れます。お使いのスピーカーの音量がすべて同じか確認してください。確認したらENTERキーを押します。

CHECK OK?（テスト判定）
すべてのスピーカーの音量が同じならYes、異なっていればNoを選びます。
YES（はい）：Speaker Set Upメニューを終了します。
NO（いいえ）：Speaker Levelへ移りスピーカーの出力レベルを調節します。

Speaker Level（スピーカー出力レベル）
それぞれのスピーカーの出力バランスを調節します。

① **FR（フロント左右）**
フロントLとフロントRのバランスを調整します。

② **C（センター）**
フロントLとセンターのバランスを調整します。

③ **SL（サラウンド左）**
フロントLとサラウンドLのバランスを調整します。

④ **SR（サラウンド右）**
サラウンドLとサラウンドRのバランスを調整します。

⑤ **SWFR（サブウーファー）**
フロントLとサブウーファーのバランスを調整します。

NO（いいえ）

YES（はい）

設定完了

- BASIC以外のセットメニュー項目については、**「セットメニュー(SET MENU)で設定を変更する」(→P.58)**を参照してください。

部屋の大きさやスピーカーシステムにあわせて出力設定するーSpeaker Set Up(スピーカー設定)

リスニング環境にあわせて、アンプの出力設定をします。

```
 · BASIC MENU
→ ROOM :  ▶S  M  L
  SWFR :  YES▶NONE
  SPEAKERS····5spk
     SET ▶CANCEL
  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Select
```

① 部屋の大きさを選ぶ「ROOM(部屋の大きさ設定)」

選択項目:S(小)、M(中)、L(大)
初期設定:M(中)

本機を使用する部屋の大きさを選びます。大きさの目安は「S」が3.6m×2.8m(6畳)、「M」が4.8m×4m(12畳)、「L」が6.3m×5m(18畳)です。

② サブウーファーの有無を選ぶ「SWFR(サブウーファー設定)」

選択項目:YES(あり)、NONE(なし)
初期設定:YES(あり)

サブウーファーを使用するときは「YES」を、使用しないときは「NONE」を選びます。

③ スピーカーの本数を選ぶ「SPEAKERS(スピーカーの本数)」

選択項目:2、3、4、5、spk(本)
初期設定:5 spk(本)

使用するスピーカーの本数を選びます。次の表を参考に、適切な本数を選んでください。

選択項目	入力信号チャンネル表示	使用するスピーカー
2 spk	L R	フロントL、フロントR
3 spk	L C R	フロントL、センター、フロントR
4 spk	L R SL SR	フロントL、フロントR、サラウンドL、サラウンドR
5 spk	L C R SL SR	フロントL、センター、フロントR、サラウンドL、サラウンドR

注 意

- スピーカーの本数は、サブウーファーを除く合計使用本数を選んでください。

④ 設定するか確認する「SET(設定確認)」

選択項目:SET(設定)、CANCEL(無効)

①〜③で選んだ設定を決定するか確認します。
SETを選ぶと設定内容が決定され、表示が「CHECK : Test Tone」に変わり、テストトーンが出力されます。
CANCELを選ぶと、BASICメニューのはじめの表示に戻ります。

⑤ 各スピーカーからの音量を確認する「CHECK : Test Tone」

④でSETを選ぶと、テストトーンが出力されます。各スピーカーから同じ音量でテストトーンが聞こえるかを確認してENTERキーを押します。

ヒント

- テストトーンは2回巡回します。
- テストトーンの巡回中は、テストトーンを出力しているスピーカーの入力信号チャンネル表示が点滅します。

⑥ Speaker Set Upを終了する「CHECK OK?(テスト判定)」

⑤でスピーカーから同じ音量のテストトーンが聞こえたら、YESを選んでSpeaker Set Upメニューを終了します。音量が異なる場合は、NOを選んでください。自動的に「Speaker Level(スピーカー出力レベル)」の設定へ移り、音量を調節できます。

スピーカーの音声出力レベルを調節する―Speaker Level(スピーカー出力レベル)

フロントL、サラウンドLスピーカーと各スピーカーから出力されるテストトーンの音量を比較して、同じ音量になるように調節します。

B)SPEAKER LEVEL
\- +
SR
SWFR

① FR(フロント左右)

フロントLスピーカーとフロントRスピーカーの音量が同じになるように、フロントRスピーカーの音量を調節します。

調節範囲:－10～＋10dB
初期設定:0dB

② C(センター)

フロントLスピーカーとセンタースピーカーの音量が同じになるように、センタースピーカーの音量を調節します。

調節範囲:－10～＋10dB
初期設定:0dB

③ SL(サラウンド左)

フロントLスピーカーとサラウンドLスピーカーの音量が同じになるように、サラウンドLスピーカーの音量を調節します。

調節範囲:－10～＋10dB
初期設定:0dB

④ SR(サラウンド右)

サラウンドLスピーカーとサラウンドRスピーカーの音量が同じになるように、サラウンドRスピーカーの音量を調節します。

調節範囲:－10～＋10dB
初期設定:0dB

⑤ SWFR(サブウーファー)

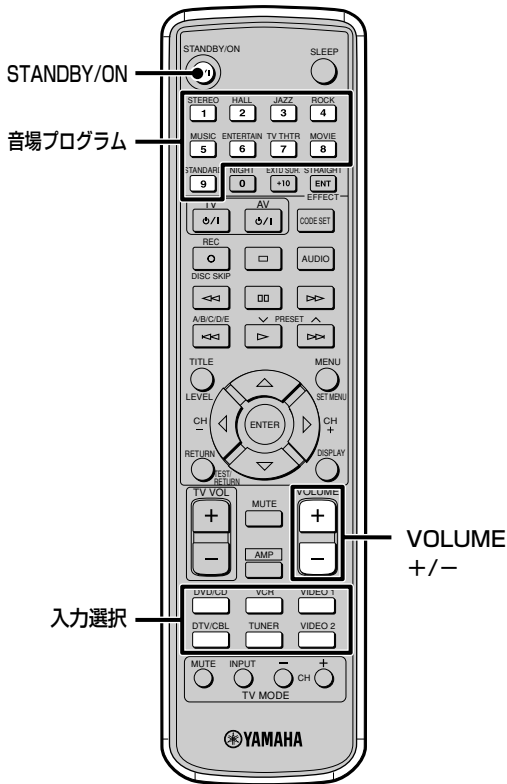
フロントLスピーカーとサブウーファーの音量が同じになるように、サブウーファーの音量を調節します。

調節範囲:－10～＋10dB
初期設定:0dB

ヒント
- テストトーンはフロント左またはサラウンド左スピーカーと選んだスピーカーから交互に出力されます。ディスプレイの入力信号チャンネル表示で、テストトーンを出力しているスピーカーがわかります。
- ②～④の項目では、BASICメニューの「SPEAKERS」で選んだスピーカーだけを調節できます。

再生する

基本操作

本機に接続したオーディオ機器やビデオ機器を再生します。

1 STANDBY/ONキーを押して本機の電源を入れる。

2 DVDなどの映像ソースを再生する場合は、本機と接続したテレビ(モニター)の電源を入れる。

3 テレビの入力を切り替える。
例えば、本機の映像出力端子をテレビのビデオ入力1端子に接続したときはビデオ入力1にします。

4 入力選択キーを押して再生したい音声／映像(入力ソース)を選ぶ。
選んだ音声／映像(入力ソース)の種類が、ディスプレイに数秒間表示されます。

選んだ入力ソース

注意

- 入力選択キーや表示される入力ソース名は、どの入力端子から入力しているかを示しています。接続した機器名と入力端子名が異なる場合は、入力端子名を選びます。
  例: LDプレーヤーをDTV/CBL端子に接続した場合、LDプレーヤーの音声／映像を楽しむためには、DTV/CBLキーを押して入力ソースを「DTV/CBL」に切り替えます。

ヒント

- **本体から選ぶには次のように操作します。**
  1 INPUTキーを押す。
  VOLUME/SELECTつまみの機能が入力選択になります。
  2 VOLUME/SELECTつまみを回して、再生したい入力ソースを選ぶ。
  INPUTキーを押してから、5秒以内につまみ回してください。
  INPUTキーを押して、5秒を過ぎるとVOLUME/SELECTつまみの機能は通常の音量調節に戻ります。
  3 VOLUME/SELECTつまみを押す。
  VOLUME/SELECTつまみの機能が音量調節に戻ります。

機器の再生(またはAM／FM放送の受信)を始める。

DVDを再生する(→P.34)
衛星放送チューナーやCATVチューナーでTVを見る(→P.35)
LDを再生する(→P.35)
ビデオを再生する(→P.36)
TVゲームで遊ぶ(→P.36)
AM／FM放送を聴く(→P.38)

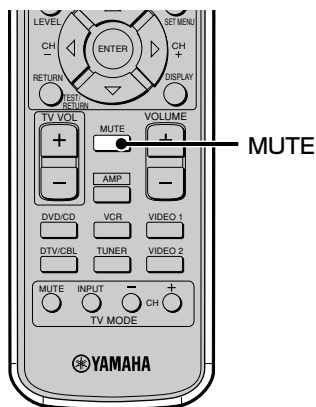
注 意

- コピーガード信号が入ったビデオソースを再生すると画像がブレることがあります。

6 VOLUME＋/－キーを押して、音量を調節する。

7 音場プログラムキーを押して、音場プログラムを選ぶ。

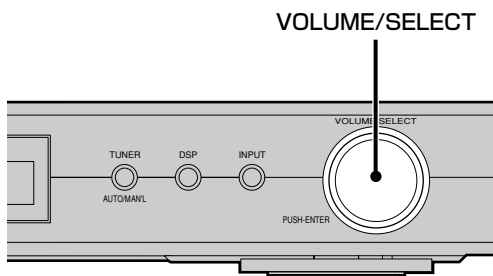
音場プログラムの選び方については、**「お好みの音で楽しむ(音場を選ぶ)」(→P.37)**をご覧ください。

一時的に音量を下げる

ソースの再生中にMUTEキーを押す。

前の音量に戻すには、もう一度MUTEキーを押します。

ヒント

- SOUNDメニューの「AUDIO MUTE」で下げる音量(MUTE、－20dB)を選べます。→**P.64「その他の音声出力を設定する(AUDIO SET)」**
- 本機をスタンバイ状態にすると、MUTEが解除されます。
- VOLUME＋/－キーや音場プログラムキーなどを押してもMUTEは解除されます。
- 音量を下げている間は、ディスプレイのMUTE表示が点滅します。

音色を調整する

フロントL/Rスピーカーやヘッドホンの音色をお好みで調節できます。

本体前面

本体のVOLUME/SELECTつまみを繰り返し押して、「TREBLE」または「BASS」を選ぶ。

高域を調節するには「TREBLE」を、低域を調節するには「BASS」を選びます。

VOLUME/SELECTつまみを左右に回して音色を調節する。

①でTREBLEを選んだ場合

高域を効かせたいとき:つまみを右に回します。

高域を効かせたくないとき:つまみを左に回します。

①でBASSを選んだ場合

低域を効かせたいとき:つまみを右に回します。

低域を効かせたくないとき:つまみを左に回します。

調節が終わったら、本体のVOLUME/SELECTつまみをもう一度押すか、リモコンのVOLUME +/−キーを押してください。(または約5秒間何も操作しなければ、元の状態に戻ります。)

ヒント

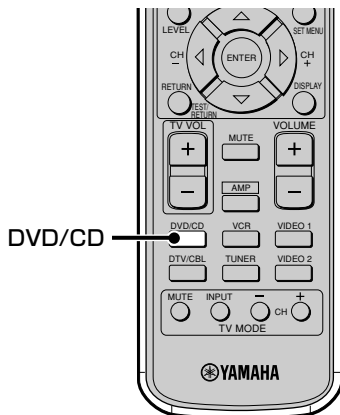
- スピーカーを使用した場合とヘッドホンを使用した場合で、調節した音色を別々に本機に保存できます。

注 意

- 高域／低域を極端に上げ下げするとサラウンドスピーカーの音色とフロントL/Rスピーカーの音色が合わなくなる場合があります。
- 2チャンネルソースをダイレクトに再生する場合は、音色を調節できません。

本機の使用を終了する

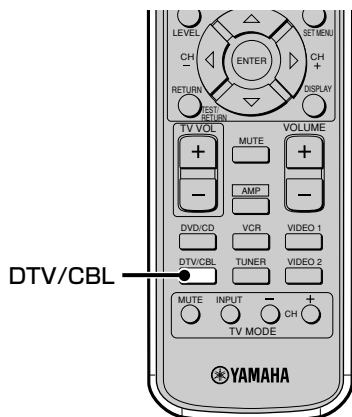
STANDBY/ONキーを押して、本機をスタンバイ状態にする。

DVDを再生する

DVD/CDプレーヤーの操作については、お使いになる機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- 操作手順は**「再生機器を接続する」**(→P.20)、**「録音・録画機器、テレビ(モニター)を接続する」**(→P.23)の接続例をもとに説明しています。
- 本機に接続したDVDプレーヤーやテレビを、本機のリモコンで操作することもできますが、これらの機器のリモコンコードを前もってリモコンに登録しておくことが必要です。**→P.74「リモコンを使いこなす」**

1. **テレビの電源を入れる。**
2. **DVD/CDプレーヤーの電源を入れる。**
3. **テレビの入力を切り替える。**
   例えば、本機の映像出力端子をテレビのビデオ入力1端子に接続したときは、ビデオ1にします。
4. **DVD/CDキーを押す。**
   DVD/CDプレーヤーを選択できます。
5. **DVD/CDプレーヤーを再生する。**

衛星放送チューナーやCATVチューナーでTVを見る

衛星放送／CATVチューナーの操作については、お使いになる機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

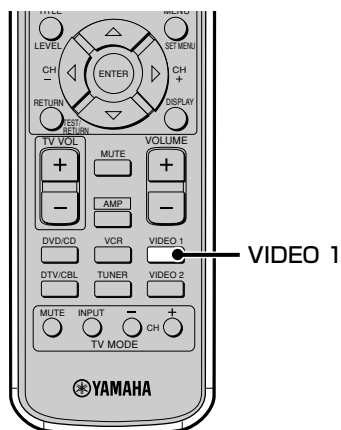
- 操作手順は**「再生機器を接続する」(→P.20)**、**「録音・録画機器、テレビ(モニター)を接続する」(→P.23)**の接続例をもとに説明しています。
- 本機に接続した衛星放送／CATVチューナーやテレビを、本機のリモコンで操作することもできますが、これらの機器のリモコンコードを前もってリモコンに登録しておくことが必要です。→**P.74「リモコンを使いこなす」**

1 テレビの電源を入れる。

2 衛星放送／CATVチューナーの電源を入れる。

3 テレビの入力を切り替える。
例えば、本機の映像出力端子をテレビのビデオ入力1端子に接続したときは、ビデオ1にします。

4 DTV/CBLキーを押す。
衛星放送／CATVチューナーを選択できます。

LDを再生する

LDプレーヤーの操作については、お使いになる機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- 操作手順は**「再生機器を接続する」(→P.20)**、**「録音・録画機器、テレビ(モニター)を接続する」(→P.23)**の接続例をもとに説明しています。

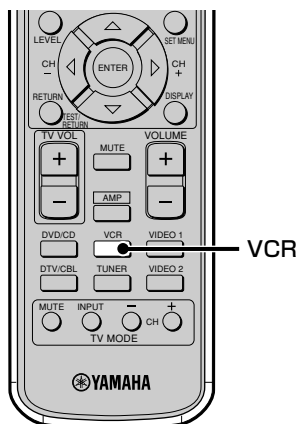
1 テレビの電源を入れる。

2 LDプレーヤーの電源を入れる。

3 テレビの入力を切り替える。
例えば、本機の映像出力端子をテレビのビデオ入力1端子に接続したときは、ビデオ1にします。

4 VIDEO 1キーを押す。
LDプレーヤーを選択できます。

5 LDプレーヤーを再生する。

ビデオを再生する

ビデオデッキの操作については、お使いになるビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- 操作手順は**「再生機器を接続する」**(→P.20)、**「録音・録画機器、テレビ(モニター)を接続する」**(→P.23)の接続例をもとに説明しています。
- 本機に接続したビデオデッキやテレビを、本機のリモコンで操作することもできますが、これらの機器のリモコンコードを前もってリモコンに登録しておくことが必要です。→**P.74「リモコンを使いこなす」**

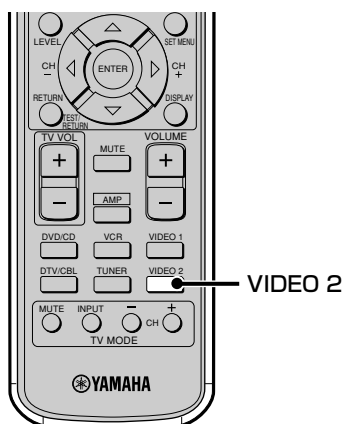
1 **テレビの電源を入れる。**

2 **ビデオデッキの電源を入れる。**

3 **テレビの入力を切り替える。**
例えば、本機の映像出力端子をテレビのビデオ入力1端子に接続したときは、ビデオ1にします。

4 **VCRキーを押す。**
ビデオデッキを選択できます。

5 **ビデオデッキを再生する。**

TVゲームで遊ぶ

TVゲームの操作については、お使いになる機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- 操作手順は**「再生機器を接続する」**(→P.20)、**「録音・録画機器、テレビ(モニター)を接続する」**(→P.23)の接続例をもとに説明しています。

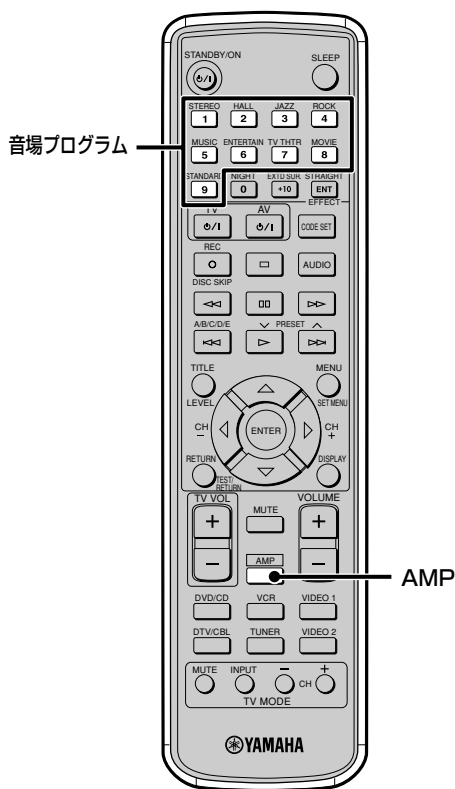
1 **テレビの電源を入れる。**

2 **TVゲーム機の電源を入れる。**

3 **テレビの入力を切り替える。**
例えば、本機の映像出力端子をテレビのビデオ入力1端子に接続したときは、ビデオ1にします。

4 **VIDEO 2キーを押す。**
TVゲームを選択できます。

5 **TVゲーム機を再生する。**

お好みの音で楽しむ（音場を選ぶ）

空間が持つ特有の音の響きのことを音場と言います。

本機は、実測データを元に作成されたHi-Fi DSP音場プログラム（音楽系ソース用）に加え、より幅広い表現力を持つCINEMA DSP音場プログラム（映像系ソース用）を内蔵しており、再生音に最適な効果を与えることができます。

再生するときにお好みの音場プログラムを選ぶだけで、再生ソースの音声に迫力の臨場感や音場効果が加えられ、映画館やライブ会場さながらの音をお楽しみいただけます。各音場プログラムの特長については、「音場プログラムガイド」（→P.43）をご覧ください。

1 AMPキーを押す。

2 音場プログラムキーを押してお好みの音場プログラムを選ぶ。

プログラム名は、ディスプレイに表示されます。

3 サブプログラムを選ぶには、音場プログラムキーを繰り返し押す。

音場プログラムキー6～8には複数のサブプログラムがあります。

例：ENTERTAINMENTキーを繰り返し押すと、音場サブプログラム「Disco」と「Game」が交互に表示されます。

ヒント

- 本体から選ぶには次のように操作します。
  1 DSPキーを押して、DSP選択モードを選ぶ。
  DSPキーを押すたびに、DSP選択モードとSTRAIGHTモードに切り替わります。DSP選択モードでは音場プログラム名が、STRAIGHTモードでは「STRAIGHT」がそれぞれ表示されます。
  2 VOLUME/SELECTつまみを回して、お好みの音場プログラムを選ぶ。
  DSPキーを押してから、5秒以内につまみを回してください。
  3 VOLUME/SELECTつまみを押す。

ヒント

- 音場プログラムはプログラム名にこだわらず、実際に聴いてみてお好みにあわせてお選びください。

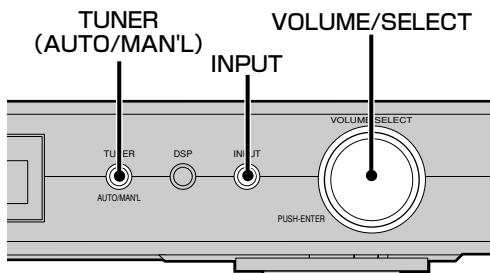
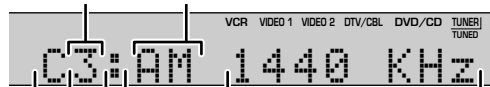
注 意

- 一部の音場プログラムでは入力信号の種類に適したデコーダーと音場サブプログラムが自動的に選ばれます。
- 入力ソースを切り替えると、そのソースに対して前回設定した音場プログラムが選ばれます。
- 入力モードがAUTOに設定されているとき、ドルビーデジタル、DTSまたはAAC信号が入力されると、選んでいる音場プログラムによっては、入力ソースに対応した音場サブプログラムに自動的に切り替わる場合があります。
- 本機をスタンバイ状態にしたときの入力ソースと音場プログラムは記憶されています。電源を入れると、自動的に前回の状態に戻ります。
- サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル信号（DTS96/24信号は除く）は、一度48kHz以下に変換されてから、音場効果が加わります。

基本操作

FM／AM放送を聴く

放送局を選ぶ

選局のしかたには、自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局の2種類があります。電波の強い放送局を受信するときは、オート選局が速くて便利です。電波の弱い放送局は、マニュアル選局してください。

ディスプレイ表示例

※ チューニング（選局）モードのときに消灯し、プリセット（登録／選局）モードのときに点灯します。

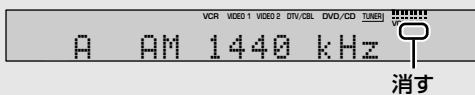
1 **INPUTキーを押す。**

2 **VOLUME/SELECTつまみを回して、「TUNER」を選ぶ。**

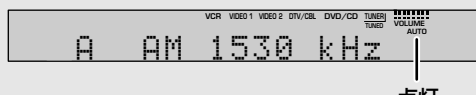
3 **INPUTキーを押して、FMまたはAMを選ぶ。**
押すたびにFM（チューニングモード）→AM（チューニングモード）→（プリセットモード）→FM（チューニングモード）→...の順に切り替わります。

ヒント
- バンド表示の隣のコロン（：）が消えていれば、チューニングモードです。コロン（：）が消えていることを確認してください。

マニュアル選局

4 **TUNER(AUTO/MAN' L)キーを約1秒押して、ディスプレイのAUTO表示を消す。**

5 **VOLUME/SELECTつまみを回して、受信したい放送局を選ぶ。**
高い周波数の放送局を探すときは右に、低い周波数の放送局を探すときは左に回します。
放送局を受信すると、ディスプレイにTUNED表示が点灯し、周波数が表示されます。

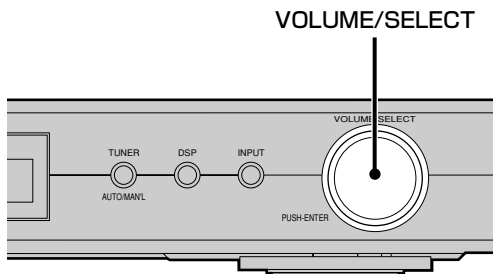
オート選局

4 **TUNER(AUTO/MAN' L)キーを約1秒押して、ディスプレイにAUTO表示を点灯させる。**

5 **VOLUME/SELECTつまみを回して、受信したい放送局を選ぶ。**
高い周波数の放送局を探すときは右に、低い周波数の放送局を探すときは左に回します。左右どちらかにつまみを回すと、自動的にチューニングを開始します。
放送局を受信すると、ディスプレイにTUNED表示が点灯し、周波数が表示されます。

ヒント
- 電波が弱くてお聴きになりたい放送局が選局できない時は、手動で選局してください（マニュアル選局）。
- マニュアル選局でFMステレオ放送を受信するとモノラル受信になりますが、雑音を軽減できます。

放送局を登録する（プリセット）

FM放送局を自動登録する（オートプリセット）

FM放送局を自動的に40局（8局×5グループ）まで登録（プリセット）できます。放送局を登録しておくと、あとは簡単なキー操作で選局することができて便利です。

1 「放送局を選ぶ」（→P.38）の手順 ① ～ ③ を行い、FMチューニングモードを選ぶ。

2 VOLUME/SELECTつまみを約7～8秒押し続ける。

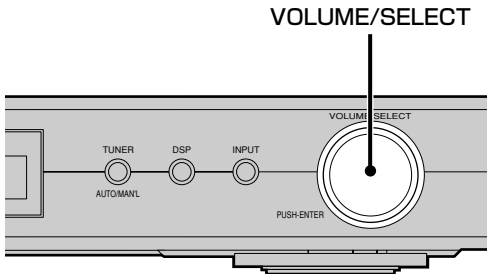
プリセット番号とMEMORY表示、AUTO表示が点滅し、表示されている周波数からオートプリセットが開始されます。

プリセット番号（A1～E8）に放送局が登録されます。

注 意

- 新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。電波の弱いFM放送局を登録したいときは、手動で登録してください（次ページ）。

手動で登録する（マニュアルプリセット）

放送局40局までを手動で登録することもできます。

1 プリセットしたい放送局を選局する。
詳しくは「**放送局を選ぶ**」（→P.38）をご覧ください。

2 VOLUME/SELECTつまみを約3～4秒押す。
放送局が登録できる状態になります。ディスプレイのMEMORY表示が約5秒間点滅します。

注 意

- VOLUME/SELECTつまみは6秒以上押さないでください。FMを選んでいるときは、オートプリセットが開始されてしまいます。

3 MEMORY表示が点滅している間にVOLUME/SELECTつまみを回して、プリセットグループとプリセット番号（A1～E8）を選ぶ。

プリセットグループ／番号　点滅

4 VOLUME/SELECTつまみを押す。
選んだプリセットグループ、プリセット番号と放送バンド（「FM」または「AM」）、周波数が登録されます。

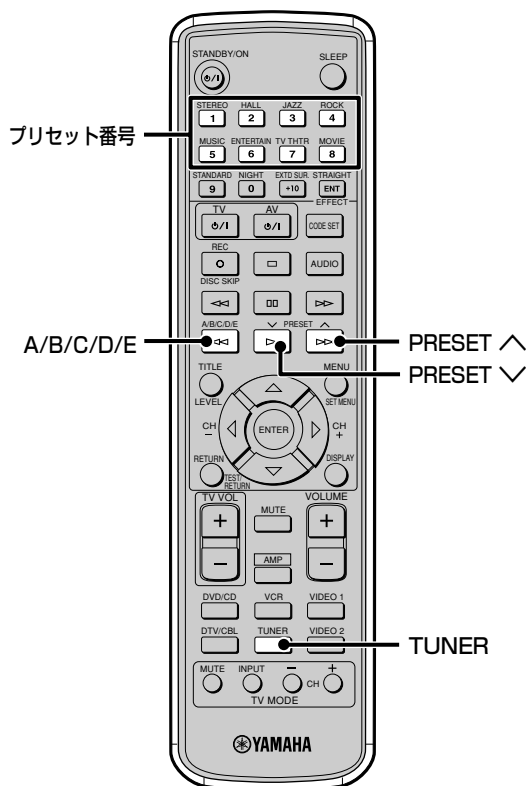
C3に登録された局を示しています。

5 他の放送局を続けて登録するときは、手順 1 ～ 4 を繰り返す。

注 意

- AM放送局は自動登録ができません。手動で登録してください。
- 新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- 新しい放送局を登録すると、放送局の周波数と受信モード（ステレオ／モノラル）も同時に登録されます。

登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局）

プリセット番号を選ぶだけで、登録した放送局を選局できます。

1 TUNERキーを押す。

2 A/B/C/D/Eキーを繰り返し押して、放送局をプリセットしたグループを表示させる。

プリセットグループA、B、C、DまたはEがディスプレイに表示されます。

3 PRESET∧または∨キーを押して、プリセット番号を選ぶ。

プリセットグループとプリセット番号が、放送バンド（「FM」または「AM」）と周波数とともにディスプレイに表示され、TUNED表示が点灯します。

プリセット番号キーを押しても選べます。

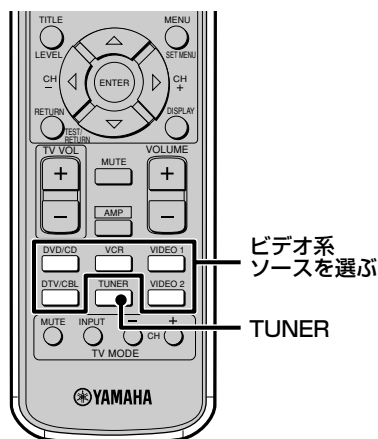
ヒント

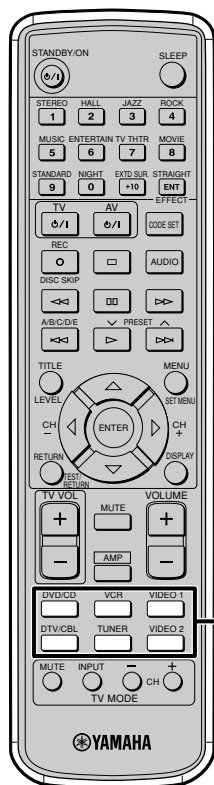
- 本体から選局するには次のように操作します。
  1 「放送局を選ぶ」（→P.38）の手順 ① 〜 ② を行う。
  2 INPUTキーを押して、プリセットモードを選ぶ。
  バンド表示の隣にコロン(:)が点灯していることを確認してください。
  3 TUNERキーを押す。
  VOLUME/SELECTつまみの機能が選局モードになります。
  4 VOLUME/SELECTつまみを回して、登録してある放送局を選ぶ。

映像をバックにFM／AM放送を聴く（バックグラウンドビデオ機能）

バックグランドビデオ機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です（例えばビデオを見ながら、クラシック音楽を楽しむことができます）。

ビデオ系ソースを選んだ後、リモコンのTUNERキーを押す。

基本操作

外部機器で録音・録画する

録音レベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

1 本機と本機に接続しているすべての機器の電源を入れる。

録音・録画機器の電源が切れていると、本機の音が歪むことがあります。

2 入力選択キーを押して、録音・録画したい入力ソースを選ぶ。

3 ソースを再生する。

AM／FM放送の番組を録音したいときは、放送局を選局します。

4 録音・録画を開始する。

注 意

- 録音・録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」を行ってください。
- 本機をスタンバイ状態にすると、接続した機器間で録音・録画することはできません。
- 録音中に音量や音質を調整したり、音場プログラムを変更したりしても、録音される音声には影響しません。
- デジタル音声端子から入力した信号を録音することはできません。再生機器をアナログ音声端子に接続し、録音してください。
- VCR IN端子から入力した信号はVCR OUT端子から出力されません。
- あなたが録音したものは個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。
- コピーガードのかかった映像系ソースを再生すると、コピーガード信号により映像に乱れが生じます。

音場プログラム

なにを再生しますか？-音場プログラムガイド-

本機でお楽しみいただける音場プログラムをご紹介します。見たい／聴きたいものに合わせて、音場プログラムを選び、再生してみましょう。

見たい／聴きたいものは？		この音場プログラムがおすすめです		
映画を見る	壮大なファンタジー映画には	MOVIE 8	**MOVIE THEATER** Spectacle	70mm映画の大画面のスペクタクルな音場
	最新のSFX映画には	MOVIE 8	**MOVIE THEATER** Sci-Fi	最新のSFX映画をクールに楽しめる音場
	大迫力のアドベンチャー映画には	MOVIE 8	**MOVIE THEATER** Adventure	アドベンチャー映画を大迫力で楽しめる音場
	ラブロマンスやコメディには	MOVIE 8	**MOVIE THEATER** General	情緒的な映画を柔かく再現する音場
	映画館の迫力をお部屋で再現するには	STANDARD 9	**SUR.STANDARD**	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号を忠実に再現
			SUR.ENHANCED	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に音場効果を与える
			PRO LOGIC II PLII Movie	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生
	懐かしのモノラル映画には	TV THTR 7	**TV THEATER** Mono Movie	往年のモノラル映画を自然に再生する音場
スポーツ／ドラマを見る	白熱のスポーツ中継やドラマには	TV THTR 7	**TV THEATER** Variety/Sports	バラエティやスポーツ中継番組に適用範囲の広い音場
ライブ映像を見る	ビッグエンターテイナーのステージには	MUSIC 5	**MUSIC VIDEO**	ロック、ジャズなどのライブコンサートを再現する音場
音楽を聴く	華麗なクラシックコンサートには	HALL 2	**CONCERT HALL**	響きが豊かな古典的な中ホールの音場
	雰囲気のあるジャズライブには	JAZZ 3	**JAZZ CLUB**	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ･ボトム･ライン」の音場
	熱気あふれるロックコンサートには	ROCK 4	**ROCK CONCERT**	ロサンゼルスのホットなロックライブハウスの音場
	ステレオ音声を楽しむには	STEREO 1	**STEREO** 2ch Stereo	ステレオ音声で再生
		STEREO 1	**STEREO** Direct Stereo	ステレオ音声で再生
	楽しいホームパーティを演出するには	ENTERTAIN 6	**ENTERTAINMENT** Disco	ホットなディスコの雰囲気を再現する音場
		STEREO 1	**STEREO** 5ch Stereo	広いエリアで音楽を楽しめる音場
ゲームをする	ゲームの世界に浸るには	ENTERTAIN 6	**ENTERTAINMENT** Game	TVゲームの軽快なノリをさらに加速させる、痛快なテンポの音場
		STANDARD 9	**PRO LOGIC II** PLII Game	サラウンド感に包まれる大迫力の音場

ヒント

- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。
- 音場プログラムの詳しい解説については44 ～47ページをご覧ください。

音場プログラムについて

本機には、音楽に最適なHiFi DSP 音場プログラム、映画に最適なCINEMA DSP 音場プログラム、元の音を忠実にデコードして再現するストレートデコードプログラムが搭載されています。

ご注意

- **本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられる場合がありますが、故障ではありません。**
- **音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。**

HiFi DSP音場プログラム

CDなどのステレオ音楽ソースに最適なプログラムです。

- フロントL/Rスピーカーの他に2本のエフェクトスピーカー(サラウンドL/サラウンドR)で音場を再現します。5ch Stereoでは、センタースピーカーからも音が出力されます。
- 入力信号に応じて各種デコーダーが使用されます。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
STEREO 1	STEREO(ステレオ)	5ch Stereo(チャンネル ステレオ)	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴のホームパーティーを演出する音場プログラムです。セットメニューの設定により、最大5つのスピーカーから音が出力されます。
HALL 2	CONCERT HALL(コンサート ホール)	–	1700席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
JAZZ 3	JAZZ CLUB(ジャズ クラブ)	–	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ·ボトム·ライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
ROCK 4	ROCK CONCERT(ロック コンサート)	–	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。
ENTERTAIN 6	ENTERTAINMENT(エンターテイメント)	Disco(ディスコ)	ディスコミュージックに包まれる、ノリの良い音場空間を演出するプログラムです。

CINEMA DSP音場プログラム

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP音場プログラム」です。映画サラウンドデコーダーであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルやDTS、またBS/地上波デジタル放送の音声フォーマットであるAACなどの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ(最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス)でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。

CINEMA DSP音場プログラムでは、フロントL/センター/フロントRチャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。

- 入力信号に応じて、各デコーダーおよび方向性強調回路が使用されます。
- センタースピーカーを使用した場合は、良好なセンター定位が得られます。
- フロントL/Rスピーカーも方向性強調に信号処理された出力になります。
- プレゼンス音場処理によって画面奥行きへの音場表現が得られます。さらに、サラウンド音場処理によってスケールの大きなサラウンド感が得られます。
- 入力モードが「AUTO」に設定されている場合、MOVIE THEATERプログラムとSUR.ENHANCEDプログラムでは、ドルビーデジタル、DTSまたはAAC信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場、DTS再生用音場またはAAC再生用音場に切り替わります。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
ENTERTAIN 6	エンターテイメント ENTERTAINMENT	ゲーム Game	モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます。
MUSIC 5	ミュージック ビデオ MUSIC VIDEO	–	ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広いホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気にひたれます。
TV THTR 7	テレビ シアター TV THEATER	モノ ムービー Mono Movie	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。
		バラエティー スポーツ Variety/Sports	プレゼンス音場は狭めてありますが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。

音場プログラム

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
MOVIE 8	ムービー シアター MOVIE THEATER	スペクタクル Spectacle	70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生み出します。70mm映画初期の作品から最新のドルビーデジタルソフトおよびDTSソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。
		サイファイ Sci-Fi	最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、サイエンス･フィクションの世界を仮想空間音場で楽しめます。
		アドベンチャー Adventure	最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm/ドルビーデジタル、DTSおよびAACマルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現するとともに音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデッドにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きとともにアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。
		ジェネラル General	70mm/ドルビーデジタル、DTSおよびAACマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。
STANDARD 9	ドルビー デジタル サラウンド エンハンスト DOLBY DIGITAL SUR. ENHANCED		ドルビーサラウンド、DTSサラウンドまたはAACサラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。35mm映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。
	サラウンド エンハンスト DTS SUR. ENHANCED		
	サラウンド エンハンスト AAC SUR. ENHANCED		
	サラウンド エンハンスト PRO LOGIC SUR. ENHANCED		2チャンネル音声をマルチチャンネル化して、DSP音場効果を付加します。

ストレートデコードプログラム

音場効果をかけずに元の音で再生したい場合は、下記のストレートデコードプログラムを選んでください。

本機には下記のデコーダーが搭載されています。
- マルチチャンネルソース用のドルビーデジタル、DTS、AACデコーダー
- 96kHz/24bitの高音質再生用のDTS96/24デコーダー
- ドルビーサラウンドと2チャンネルソース用のドルビープロロジック、ドルビープロロジックIIデコーダー

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
STANDARD 9	DOLBY DIGITAL SUR. STANDARD		ドルビーデジタル、DTS、AACで処理されたソースの再生用です。 セパレーションに優れ、安定したデコードが得られます。
	DTS SUR. STANDARD		
	AAC SUR. STANDARD		
	PRO LOGIC SUR. STANDARD		2チャンネル音声をそれぞれの方式でマルチチャンネル化して再生します。
	PRO LOGIC II	PLII Movie	
		PLII Music	
		PLII Game	

ヒント
リモコンのSTRAIGHT/EFFECTキーを押して、ストレートデコードモードに切り替えることもできます。(→P.54)

入力信号別音場プログラム名一覧

SUR.ENHANCEDプログラムおよびストレートデコードプログラムは、本機に入力されている信号の種類と、デコーダーの動作により名前が変わります。

入力信号 \ プログラム	ストレートデコードプログラム	SUR. ENHANCEDプログラム
アナログ PCM ドルビーデジタル(2ch) DTS(2ch) AAC(2ch)	PRO LOGIC / SUR. STANDARD PRO LOGIC II / PLII Movie PRO LOGIC II / PLII Music PRO LOGIC II / PLII Game	PRO LOGIC / SUR. ENHANCED
ドルビーデジタル	DOLBY DIGITAL / SUR. STANDARD	DOLBY DIGITAL / SUR. ENHANCED
DTS	DTS / SUR. STANDARD DTS 96/24 / SUR. STANDARD*[1]	DTS / SUR. ENHANCED
AAC	AAC / SUR. STANDARD	AAC / SUR. ENHANCED

*[1]DTS 96/24デコーダー動作時(dts 96/24点灯時)

入力信号と再生スピーカー対応表

入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

	2チャンネル音声（モノラル）	2チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1チャンネル音声 MATRIXインジケーター消灯時）	5.1/6.1チャンネル音声 MATRIXインジケーター点灯時）
STEREO 2ch Stereo				
STEREO 5ch Stereo				
STEREO Direct Stereo	モノラル再生		―	―
CONSERT HALL JAZZ CLUB ROCK CONCERT ENTERTAINMENT Disco				
ENTERTAINMENT Game MUSIC VIDEO TV THEATER MOVIE THEATER				
SUR. STANDARD DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	PRO LOGIC	PRO LOGIC		

	2チャンネル音声（モノラル）	2チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1チャンネル音声 MATRIXインジケーター消灯時）	5.1/6.1チャンネル音声 MATRIXインジケーター点灯時）
SUR. ENHANCED DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	PRO LOGIC	PRO LOGIC		
PRO LOGIC II PLII Movie PLII Music PLII Game	Movie/Game Music	Movie/Music/Game	――	――
STRAIGHT	モノラル再生			

表の見かた

表中のイラストは、5つのスピーカーを示します。

L：フロントLスピーカー　SL：サラウンドLスピーカー
R：フロントRスピーカー　C：センタースピーカー
SR：サラウンドRスピーカー

音が出るスピーカーと出ないスピーカーを次のように示します。

音が出ているスピーカー

音の出ていないスピーカー

注 意

- 再生するソースに含まれている信号成分によっては、スピーカーから音が出なかったり、小さい音しか出ない場合もあります。映画の効果音など、シーンに合せて部分的にしか使用されないチャンネルもあります。

そのほかの再生のしかた

スピーカーの数にあわせた音場やステレオ再生を楽しんだり、夜などの静かな時間でも迫力のある音場プログラムで楽しんだり、本機のいろいろな機能をお楽しみください。

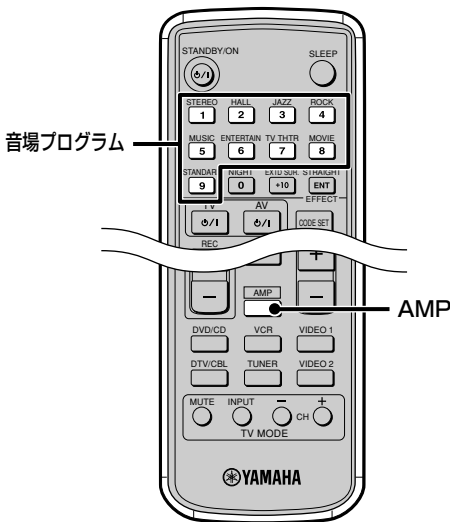
スピーカーの数にあわせた音場を楽しんだり、ステレオ再生を楽しみたい

- サラウンドスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ(バーチャルシネマDSP) → このページ
- マルチチャンネルの音場を楽しむ(EXTD SUR.キー)→P.51
- 2チャンネルソースを多チャンネルで楽しむ(PRO LOGIC、PRO LOGIC II)→ P.52
- ステレオ音声(2チャンネル)で再生する → P.53

夜などの静かな時間でも音場プログラムを楽しみたい

- ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ(サイレントシネマ) → P.55
- 夜間に小音量で音声を楽しむ(ナイトリスニングモード) → P.56
- 一定時間後に自動的に電源を切る(スリープタイマー) → P.57

サラウンドスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ(バーチャルシネマDSP)

入力ソースの音声はバーチャルシネマDSPで音場処理され、選んだ音場プログラムでフロントL／Rスピーカー、センタースピーカーおよびサブウーファーから音声が再生されます。

1 **ソースを再生する。**

2 **AMPキーを押す。**

3 **音場プログラムを選ぶ。**

4 **SOUNDメニューの「SPEAKER SET」で「SURR L/R SP」をNoneに設定する。→P.60「音声出力を設定するーSOUND MENU(音声設定)」**

ヒント

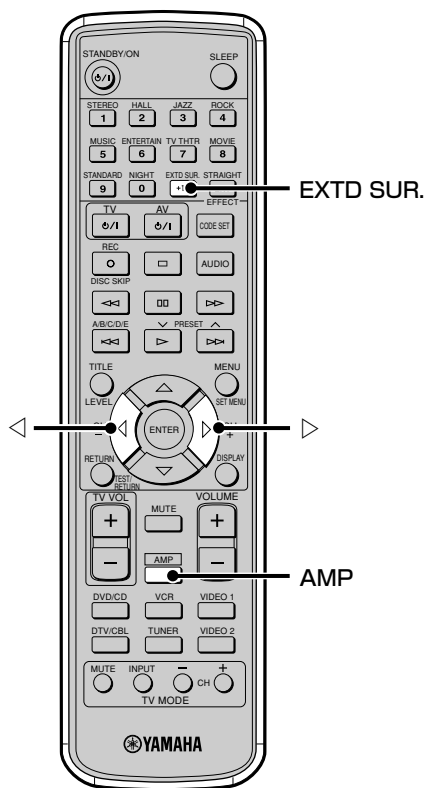
- バーチャルシネマDSPにすると、VIRTUAL表示が点灯します。

注 意

- 以下の場合は、SOUNDメニューの「SPEAKER SET」の「SURR L/R SP」がNoneに設定されていても、バーチャルシネマDSPにはなりません。
  - 5ch StereoやPRO LOGIC、DOLBY DIGITAL、DTS、AAC、PRO LOGIC II、音場プログラムを選んでいる。
  - ステレオ音声(「STEREO」がディスプレイに表示されている)で再生している。
  - ヘッドホンを接続している。

マルチチャンネルの音場を楽しむ(EXTD SUR.キー)

真正面から真後ろに音が抜けていく移動表現を、サラウンドバックチャンネルの音によってリアルに感じられるのが6.1チャンネル音声の大きな特長です。

本機に5.1チャンネルまたは6.1チャンネル音声を入力すると、Matrix 6.1デコーダーによって、サラウンドL/Rチャンネルからサラウンドバックチャンネルの音声が作り出され、6.1チャンネル音声でお楽しみいただけます。

1 AMPキーを押す。

2 EXTD SUR.キーを押して、AUTOまたはデコーダーを選ぶ。

EXTD SUR.キーを押すたびに、以下のように切り替わります。

AUTO→EXTD SUR.:ON→OFF→AUTO→...

AUTO(オート): ドルビーデジタル、DTS、AACにかかわらず、6.1チャンネルのソースを再生するときに選びます。
再生ソースの入力信号によって、自動的にMatrix 6.1デコーダーが働き、サラウンドバックチャンネルの音声が作り出されます。

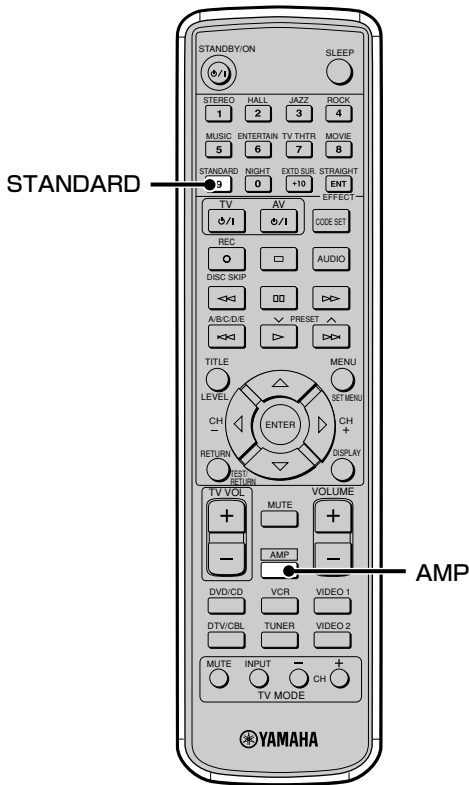
EXTD SUR.:ON: 5.1チャンネルソースを6.1チャンネル音声でお楽しみいただけます。

OFF(オフ): Matrix 6.1デコーダーは働きません。音声は5.1チャンネルで再生され、サラウンドバックスピーカーからは音が出ません。

注 意

- 6.1チャンネルソースでも、本機が自動的に認識できる信号(フラグ)が含まれていない、またはフラグが記録されていないものがあります。「AUTO」の設定でこのようなソースを再生すると「AUTO:- - -」と表示され、Matrix 6.1デコーダーは働かず、サラウンドバックチャンネルの音声は作り出されません。Matrix6.1デコーダーを働かせるには、EXTD SUR.キーを押して「EXTD SUR.:ON」を選んでください。
- 以下の場合は、EXTD SUR.キーを押しても、Matrix 6.1デコーダーは働きません。
  - SOUNDメニューの「SPEAKER SET」の「SURR L/R SP」がNoneに設定されている。
  - 音場オフ(「STRAIGHT」がディスプレイに表示されている)で再生している。
  - 音場プログラム「5ch Stereo」を選んでいる。
  - ヘッドホンを接続している。
- 本機をスタンバイ状態にすると、モードは「AUTO」にリセットされます。

2チャンネルソースを多チャンネルで楽しむ(PRO LOGIC、PRO LOGIC II)

STANDARDキーでPRO LOGIC、PRO LOGIC IIを選ぶと、2チャンネルソースを多チャンネル化してお楽しみいただけます。

1 **2チャンネルソースを再生する。**

2 **AMPキーを押す。**

3 **STANDARDキーを繰り返し押して、デコーダーおよびサブプログラムを選ぶ。**

STANDARDキーを押すたびに、以下のように切り替わります。

PRO LOGIC→PRO LOGIC ENHANCED→PRO LOGIC II Movie→PRO LOGIC II Music →PRO LOGIC II Game→PRO LOGIC→...

再生するソースにあわせて選んでください。
映画用：PRO LOGIC II Movie
音楽用：PRO LOGIC II Music

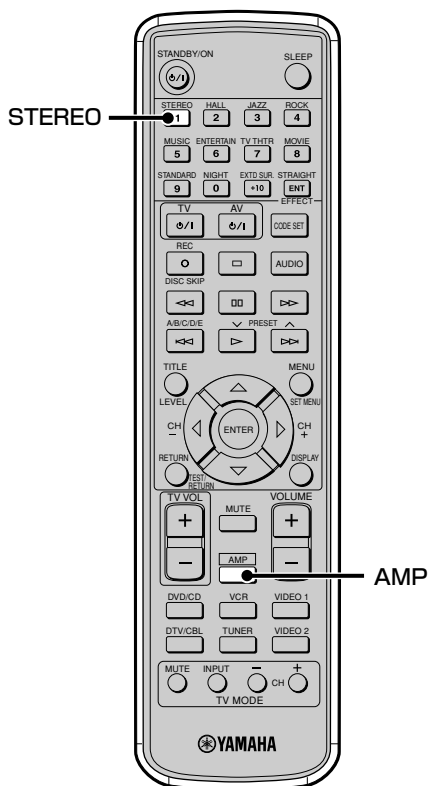
注 意

- 2チャンネル音声以外の信号は、PRO LOGIC、PRO LOGIC IIデコーダーでは再生できません。
- モノラルソースをPRO LOGIC、PRO LOGIC Enhanced、PRO LOGIC II Movie、PRO LOGIC II Game音場で再生すると、センタースピーカーからのみ音が出ます。フロントスピーカーやサラウンドスピーカーからは音は出ません。ただし、SOUNDメニューの「SPEAKER SET」の「CENTER SP」がNoneに設定されているときは、センターチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力されます。

ステレオ音声(2チャンネル)で再生する

CDなどの2チャンネルソースをオリジナルのまま再生したり、高音質なステレオ音声で再生します。

STEREO

AMP

ソースを再生する。

AMPキーを押す。

STEREOキーを繰り返し押して、「2ch Stereo」または「Direct Stereo」を表示させる。

2ch Stereo：2チャンネルソースを再生する場合、フロントL／Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

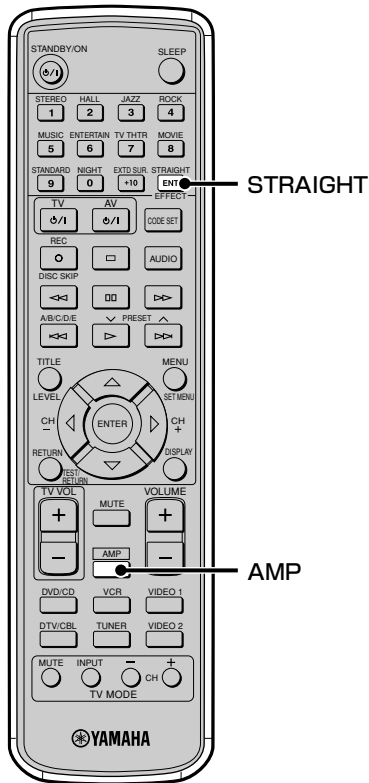
マルチチャンネルソースの場合、フロントL／Rチャンネル以外の音声を、フロントL／Rにミックスして、フロントL／Rスピーカーからステレオ音声で再生します。(LFEチャンネルはSOUNDメニュー「SPEAKER SET」の「BASS OUT」をFRONTに設定した場合のみ、フロントL/Rスピーカーにミックスされます。)

Direct Stereo：デコーダーやDSP回路などをバイパスし、アナログ信号、PCM信号を原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生します。

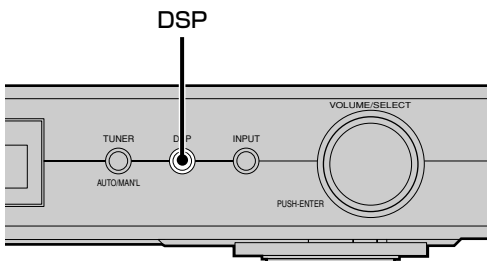
注 意

- ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソースを再生しているとき、「Direct Stereo」に切り替えると、対応するアナログ音声入力端子に入力されている信号を再生します。
- 「Direct Stereo」を選択し、入力モードで「DTS」が選択されている場合、音声は出力されません。
- 「Direct Stereo」で再生中は、サブウーファーから音声は出力されません。
- 「Direct Stereo」では以下の設定が無効になります。
  - SOUNDメニュー「SPEAKER SET」の設定
  - SOUNDメニュー「AUDIO SET」の「A.DELAY」の設定
  - 各スピーカーの音量設定
  - トーンコントロールの設定
- 「Direct Stereo」を選択すると、本体のディスプレイの表示が暗くなります。

音場効果をかけずに再生する(ストレートデコード)

入力された信号を音場効果をかけずにそのまま再生します。

1 **ソースを再生する。**

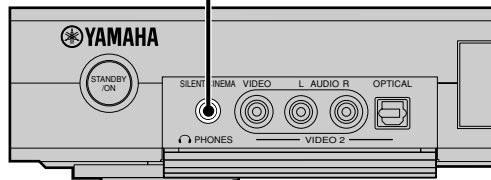
2 **AMPキーを押す。**

3 **STRAIGHTキーを押す。**
キーを押すたびに、音場効果をオン／オフします。

本体で操作するには

「STRAIGHT」が表示されるまで、DSPキーを繰り返し押す。

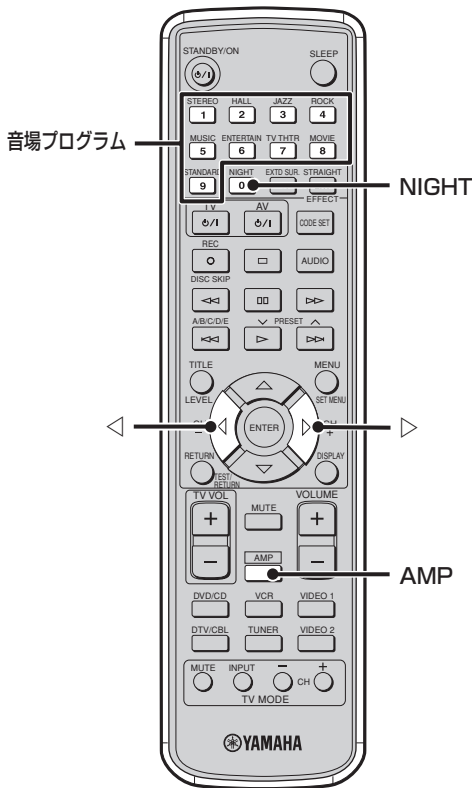
ヒント
- 2チャンネルソースの場合は、フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。
- マルチチャンネルソースの場合は、入力信号により、適切なデコーダーでデコードしたあと、マルチチャンネル音声で再生します。

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ(「サイレントシネマ」)

PHONES(SILENT CINEMA)端子

音場効果が入っている状態で、ヘッドホンを本機のPHONES(SILENT CINEMA)端子に接続すると、マルチスピーカーによる音場プログラムをヘッドホンで擬似的に再現する「サイレントシネマ」で音声を楽しめます。

「サイレントシネマ」モードで再生している間は、ディスプレイに「SILENT CINEMA」表示が点灯します。

ヒント
- 音場効果がオフのときは通常のステレオ再生になります。
- LFEチャンネル音声は他のチャンネル音声とミックスされます。
- ヘッドホンを接続すると、音場効果のオン／オフにかかわらずどのスピーカーからも音は出ません。

夜間に小音量で音声を楽しむ(ナイトリスニングモード)

夜間に小音量で再生する場合でも、セリフなどは明瞭に再生します。映画用のCINEMAモードと、音楽用のMUSICモードが用意されています。

1 ソースを再生する。

2 AMPキーを押す。

3 音場プログラムを選ぶ。

4 NIGHTキーを繰り返し押して、モードを選ぶ。
ディスプレイ表示が次のように切り替わります。

NIGHT:CINEMA→NIGHT:MUSIC→NIGHT OFF→NIGHT:CINEMA→...

「ナイトリスニングモード」で再生している間は、ディスプレイにNIGHT表示が点灯します。

また、各モードが表示されている間に◁または▷キーを押すと、エフェクトレベル(音を抑えるレベル)を選ぶことができます。

Effect.Lvl:MIN (弱めに抑える)
↑↓
Effect.Lvl:MID (ほどよく抑える：初期設定)
↑↓
Effect.Lvl:MAX (強めに抑える)

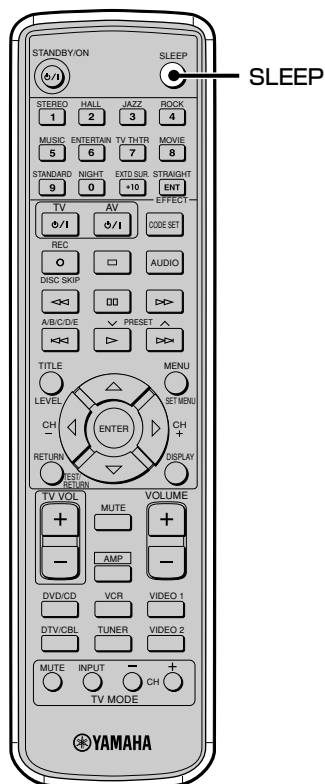
通常の再生に戻すには

NIGHTキーをもう一度押して、ディスプレイのNIGHT表示を消す。

注意

- Direct Stereo(→P.53)で再生しているときは、ナイトリスニングモードで再生できません。
- 入力ソースにより、効果に違いが生じる場合があります。

一定時間後に自動的に電源を切る（スリープタイマー）

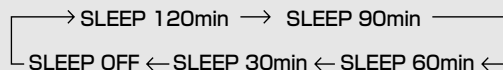
設定した時間が経過すると、本機が自動的にスタンバイ状態になるように設定できます。お気に入りのソースを楽しみながらおやすみになりたいときに便利です。

1 ソースを再生する。

2 SLEEPキーを繰り返し押して、スタンバイ状態になるまでの時間を選ぶ。

ディスプレイ表示が次のように切り替わります。選んでいる間はSLEEP表示が点滅します。
（min=分）

→ SLEEP 120min → SLEEP 90min
SLEEP OFF ← SLEEP 30min ← SLEEP 60min ←

点滅

SLEEP 120min

お好みの時間が表示されたら押すのをやめます。SLEEP表示が点灯に変わり音場プログラム表示に切り替わるとスリープタイマーの時間設定が完了します。

点灯

ROCK CONCERT

スリープタイマーを解除する

「SLEEP OFF」が表示されるまで、SLEEPキーを繰り返し押す。

しばらくすると「SLEEP OFF」は消え、SLEEP表示も消えます。ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。

ヒント

- 本機に接続した機器の電源を本機のスリープタイマーで切ることはできません。再生する機器にスリープタイマー機能がある場合は、その機器側でもスリープタイマーを設定してください。
- タイマー再生したいときは、接続している機器のタイマーを使用します。本機では再生したい入力ソースを選んで、音量を調節しておきます。再生機器やタイマーの取扱説明書もあわせて参照してください。
- リモコンのSTANDBY/ONキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押すか、電源コードを抜いてもスリープタイマーは解除されます。

セットメニュー(SET MENU)で設定を変更する

本機には、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、セットメニュー(SET MENU)が用意されています。お使いの環境にあわせて設定を変更してください。

ヒント

- 再生中でも、セットメニューで設定を変更できます。

注 意

- ナイトリスニングモードで再生しているときは、一部のセットメニューが設定できません。設定する前にナイトリスニングモードを解除してください。→**P.56「夜間に小音量で音声を楽しむ(ナイトリスニングモード)」**
- 各メニューの名称はテレビ画面に表示される名称で説明していますので、本機ディスプレイに表示される名称とは若干異なります。

セットメニュー一覧

セットメニューには、簡単に再生に適した設定を行う「BASIC SETUP」と、用途や機能別に分類されたカテゴリーを必要に応じて呼び出して設定する「MANUAL SETUP」の2つがあります。

BASIC SETUP

お部屋のサイズや、接続したスピーカーの数に合わせて、簡単に再生に適した設定を行います。(→P.28)

MANUAL SETUP

「MANUAL SETUP」は、以下のように用途、機能別に3つのカテゴリーに分類されています。

SOUND MENU

音質や音色の調節など、音声の出力に関して以下のメニューを設定、変更できます。
以下の7つのメニューがあります。

A)SPEAKER SET(→P.60)
ご使用になるスピーカーに合わせて、サイズや有無などを設定します。

B)SPEAKER LEVEL(→P.62)
各スピーカーからの出力レベルを設定します。

C)SP DISTANCE(→P.62)
各スピーカーからリスニングポジションまでの距離に合わせて、音の到達するタイミングを設定します。

D)CENTER GEQ(→P.63)
グラフィックイコライザーを使って、センタースピーカーの音色を調節します。

E)LFE LEVEL(→P.63)
ドルビーデジタル、DTS およびAAC でのLFE 信号の再生レベルを調節します。

F)DYNAMIC RANGE(→P.64)
ドルビーデジタル、DTS およびAAC 再生時のダイナミックレンジを調節します。

G)AUDIO SET(→P.64)
声と映像のずれの補正、AAC モノラル音声の出力を設定します。

INPUT MENU

入出力端子の割り当て変更など、信号の入出力に関して以下のメニューを設定、変更できます。
以下の2 つのメニューがあります。

A)INPUT ASSIGN(→P.65)
ご使用になる機器が、本機の入出力端子の機器名と異なる場合に、ご使用になる機器に合わせて端子を割り当てます。

B)INPUT MODE(→P.65)
電源を入れたときの接続機器の入力モードを設定します。

OPTION MENU

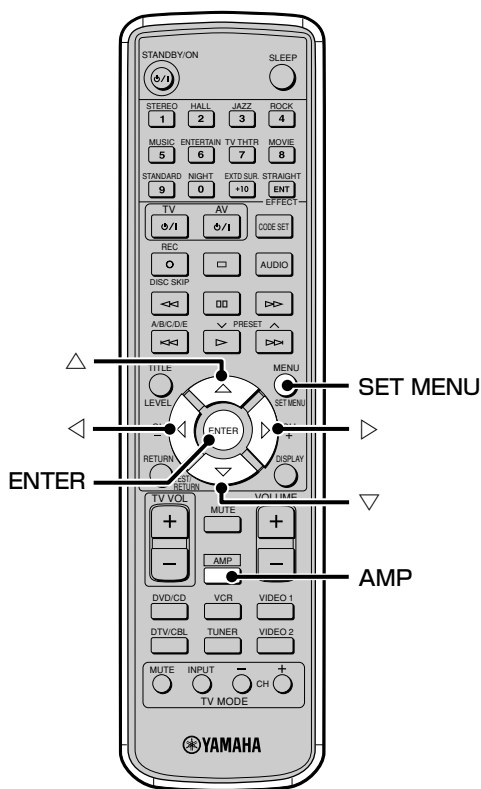
「SOUND MENU 」、「INPUT MENU 」以外にも以下のいろいろなメニューを設定、変更できます。
以下の3つのメニューがあります。

A)DISPLAY SET(→P.66)
本体ディスプレイの明るさなどを調節します。

B)MEMORY GUARD(→P.66)
変更した設定値を保護します。

C)PARAM.INI(→P.66)
音場プログラムパラメーターを初期設定に戻します。

セットメニューの操作手順

セットメニューの設定操作について説明します。(→P.59 〜 66)

1 本機とテレビの電源を入れる。

2 AMPキーを押して、AMPを選ぶ。

3 SET MENUキーを押す。

4 △▽キーを押して、「MANUAL SETUP」を選ぶ。

```
SET MENU

  ・BASIC SETUP
→ ・MANUAL SETUP

  [▲]/[▼]:Up/Down
  [ENTER]:Enter
```

5 ENTERキーを押す。

```
MANUAL SETUP

→ 1 SOUND MENU
  2 INPUT MENU
  3 OPTION MENU

  [▲]/[▼]:Up/Down
  [ENTER]:Enter
```

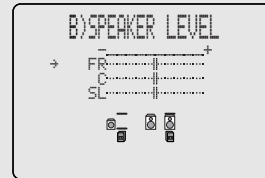
6 △▽キーを繰り返し押して、設定したいメニューがあるカテゴリーを選ぶ。

7 ENTERキーを押す。
選んだカテゴリー内のメニューが表示されます。

```
1 SOUND MENU 1/2

→ A)SPEAKER SET
  B)SPEAKER LEVEL
  C)SP DISTANCE
  D)CENTER GEQ
  [▲]/[▼]:Up/Down
  [ENTER]:Enter
```

8 △▽キーを繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ。

ENTERキーを押す。
選んだメニューの設定画面が表示されます。
項目によっては△▽キーを押して、サブメニューを選びます。

◁▷キーを繰り返し押して、設定を変更する。
前の画面に戻るには、TEST/RETURNキーを押します。

11 **セットメニューを終了するときは、SET MENUキーを押す。**

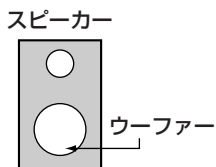
音声出力を設定するーSOUND MENU（音声設定）

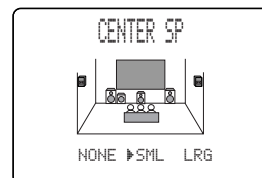
使用するスピーカーの数や大きさ、リスニングポイントとスピーカーとの距離を指定したり、音色や低音域の調節をして、音声出力の設定ができます。
SOUNDメニューの設定を変更したあとは、必ずテストトーンで各スピーカーの音量を調節してください。**→P.72「テストトーンを使って調節する」**

スピーカーのサイズを設定する（SPEAKER SET）

お使いになるスピーカーにあわせて、スピーカーのサイズ、有無などを設定します。
（MANUAL SETUP →SOUND MENU →SPEAKER SET）

ヒント

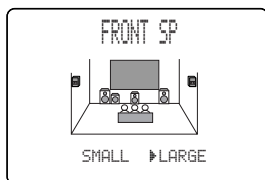
- 目安として、ウーファーの口径が16cm 未満のスピーカーをお使いの場合はSML（SMALL）、それ以上の口径の場合はLRG（LARGE）に設定します。

CENTER SP

センタースピーカーのサイズ、有無を設定します。

選択項目：LRG（大）、SML（小）、NONE（なし）
初期設定：SML

ヒント

- SMLに設定した場合、低域成分は「LFE/BASS OUT」の設定にしたがって出力されます。
- NONEに設定した場合、センターチャンネルはフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

FRONT SP

フロントL／Rスピーカーのサイズを設定します。

選択項目：LARGE（大）、SMALL（小）
初期設定：LARGE

ヒント

- SMALLに設定した場合、低域成分は「LFE/BASS OUT」の設定にしたがって出力されます。

SURR L/R SP

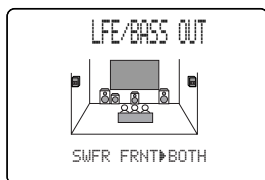
サラウンドL／Rスピーカーのサイズ、有無を設定します。

選択項目：LRG（大）、SML（小）、NONE（なし）
初期設定：SML

ヒント

- SMLに設定した場合、低域成分は「LFE/BASS OUT」の設定にしたがって出力されます。
- NONEに設定して音場プログラムを使うと、バーチャルシネマDSPモードで再生します。（→P.50）

LFE/BASS OUT

低音成分を出力するスピーカーを設定します。

選択項目：SWFR（サブウーファー）、
FRNT（フロント）、BOTH（両方）
初期設定：BOTH

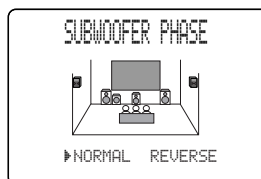
SWFR:
サブウーファーを接続している場合に設定します。
LFEチャンネルと、各スピーカーのサイズ設定により、他チャンネルの低音域がサブウーファーに出力されます。
FRNT:
サブウーファーを接続してない場合に設定します。
LFEチャンネルと、各スピーカーのサイズ設定により、他チャンネルの低音域がフロントL/Rスピーカーに出力されます。
BOTH:
サブウーファーを接続していて、フロントL/Rチャンネルの低音域をフロントL/Rスピーカーとサブウーファーの両方に出力したい場合に設定します。
LFEチャンネルと、フロント以外のチャンネルの低音域は、スピーカーのサイズ設定により、サブウーファーから出力されます。
例えば、CDを再生するときに、サブウーファーを使って低音域を補強したい場合などはこの設定にします。

CROSS OVER

サブウーファーに出力する低音成分の、周波数の上限を設定します。設定した周波数以下の低音成分が、サブウーファーに出力されます。

選択項目：40Hz、60Hz、80Hz、90Hz、100Hz、
110Hz、120Hz、160Hz、200Hz
初期設定：80Hz

SUBWOOFER PHASE

お使いになるサブウーファーの位相を設定します。
低音が物足りない場合などにお試しください。

選択項目：NORMAL（正相）、REVERSE（逆相）
初期設定：NORMAL

スピーカーの音量を調整する(SPEAKER LEVEL)

リスニングポジションで聞こえる各スピーカーの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。
各スピーカーから出力されるテストトーンを聴きながら調節します。
(MANUAL SETUP→SOUND MENU→SPEAKER LEVEL)

FR

フロントL スピーカーの音量と比較して、フロントRスピーカーの音量を調節します。
可変範囲:−10.0〜＋10.0dB

C

フロントL スピーカーの音量と比較して、センタースピーカーの音量を調節します。
可変範囲:−10.0〜＋10.0dB

SL

フロントL スピーカーの音量と比較して、サラウンドLスピーカーの音量を調節します。
可変範囲:−10.0〜＋10.0dB

SR

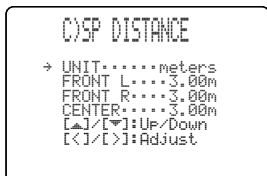
サラウンドL スピーカーの音量と比較して、サラウンドRスピーカーの音量を調節します。
可変範囲:−10.0〜＋10.0dB

SWFR

フロントL スピーカーの音量と比較して、サブウーファーの音量を調節します。
可変範囲:−10.0〜＋10.0dB

各スピーカーからリスニングポジション(視聴位置)までの距離を設定する(SP DISTANCE)

各スピーカーからの音が同時にリスニングポジション(視聴位置)に届くように、スピーカーから音が出るタイミングを調節します。音が出るタイミングは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することで調節されます。
(MANUAL SETUP→SOUND MENU→SP DISTANCE)

C)SP DISTANCE
→ UNIT······meters
FRONT L····3.00m
FRONT R····3.00m
CENTER·····3.00m
[▲]/[▼]:Up/Down
[<]/[>]:Adjust

UNIT

設定する距離の単位を選びます。
選択項目:meters、feet
初期設定:meters

FRONT L

フロントL スピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲:0.3〜24.0m、1.0〜80.0ft
初期設定:3.0m、10.0ft

FRONT R

フロントR スピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲:0.3〜24.0m、1.0〜80.0ft
初期設定:3.0m、10.0ft

CENTER

センタースピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲:0.3〜24.0m、1.0〜80.0ft
初期設定:3.0m、10.0ft

SURR L

サラウンドL スピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲：0.3～24.0m 、1.0～80.0ft
初期設定：3.0m、10.0ft

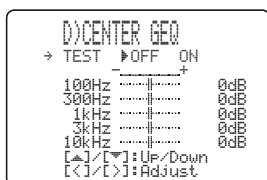
SURR R

サラウンドR スピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲：0.3～24.0m、1.0～80.0ft
初期設定：3.0m、10.0ft

SWFR

サブウーファーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲：0.3～24.0m、1.0～80.0ft
初期設定：3.0m、10.0ft

センタースピーカーの音色を調整する（CENTER GEQ）

センタースピーカーの音色を、フロントL/R スピーカーの音色と合わせるために、センターチャンネルのグラフィックイコライザーを調節します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→CENTER GEQ）

TEST

テストトーンを使って、センタースピーカーの音色を調節します。調節は、フロントLスピーカーとセンタースピーカーから出力されるテストトーンを比較して行います。
選択項目：ON、OFF

100Hz、300Hz、1kHz、3kHz、10kHz

それぞれの周波数帯のレベルを調節します。
可変範囲：－6～＋6dB
初期設定：0dB

低域効果音の音量を調整する（LFE LEVEL）

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号に含まれる、LFE(低域効果音)の音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に調節できます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→LFE LEVEL）

E)LFE LEVEL
SPEAKER······0dB
HEADPHONE····0dB
[▲]/[▼]:Up/Down
[<]/[>]:Adjust

SPEAKER

スピーカーで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。
可変範囲：－20～0dB
初期設定：0dB

HEADPHONE

ヘッドホンで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。
可変範囲：－20～0dB
初期設定：0dB

ご注意

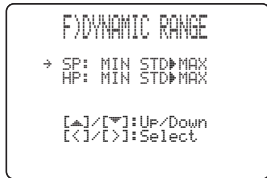
お使いになるサブウーファーやヘッドホンの性能に応じて音量を調節してください。

ダイナミックレンジを設定する（DYNAMIC RANGE）

ドルビーデジタル/DTS 再生時のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を、3 段階から選びます。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に選べます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→DYNAMIC RANGE）

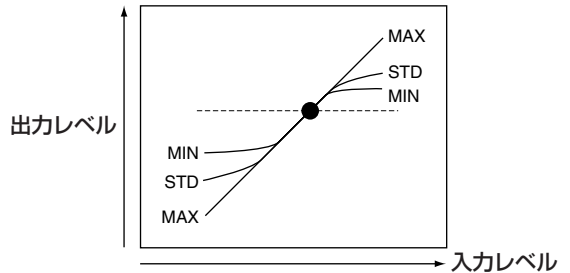
```
F)DYNAMIC RANGE

→ SP: MIN STD▶MAX
  HP: MIN STD▶MAX

  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Select
```

SP

スピーカーで音を聴く場合の、ダイナミックレンジを選びます。
選択項目：MAX（最大）、STD（標準）、MIN（最小）
初期設定：MAX

HP

ヘッドホンで音を聴く場合の、ダイナミックレンジを選びます。
選択項目：MAX（最大）、STD（標準）、MIN（最小）
初期設定：MAX

MAX：
入力された信号をリニアに再生するダイナミックレンジです。
STD：
一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。
MIN：
小音量でも聴きやすく、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

その他の音声出力を設定する（AUDIO SET）

音声と映像のずれを補正したり、AAC モノラル音声の出力を設定します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→AUDIO SET）

```
G)AUDIO SET

→ AUDIO MUTE‥MUTE
  AUDIO DELAY‥0ms
  DUAL MONO…MAIN

  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Selet
```

AUDIO MUTE

ミュート（消音）時に下げる音量を調節します。
選択項目：MUTE、−20dB
初期設定：MUTE

MUTE：
完全に消音し、無音にします。
−20dB：
いま聴いている音量よりも、20dB下げて再生します。

AUDIO DELAY

デジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのずれ音を遅らせる時間を設定します。
可変範囲：0〜160ms
初期設定：0ms

DUAL MONO

BS/地上波デジタル放送などで使われている、モノラル二重音声入力時に、どの音声を出力するか設定します。
選択項目：MAIN（主音声）、SUB（副音声）、
ALL（主音声＋副音声）
初期設定：MAIN

入力設定を変更するーINPUT MENU(入力設定)

接続した機器にあわせて本機のデジタル入力端子の割り当てを変更したり、入力モードの適用方法を設定することができます。

入力端子の割り当てを変更する(INPUT ASSIGN)

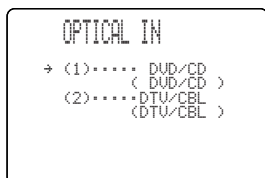
お使いになる機器と、本機のデジタル入力端子の機器名が異なる場合に、お使いになる機器に合わせて端子を割り当てることができます。割り当てを変更すると、変更後の機器を入力選択キーで選べます。
(MANUAL SETUP→INPUT MENU→INPUT ASSIGN)

ここでは、DVDプレーヤーを接続し、各端子の割り当てを「DVD/CD」に設定する場合を例に説明します。設定後は入力選択キーの「DVD/CD」を押すと、DVDプレーヤーを選べます。

OPTICAL IN (1) (2)

光デジタル入力端子の割り当てを変更します。

```
OPTICAL IN

→ (1)・・・・・ DVD/CD
        ( DVD/CD )
  (2)・・・・・DTV/CBL
        (DTV/CBL )
```

選択項目: DVD/CD、VIDEO1、VCR、DTV/CBL
初期設定: (1) DVD/CD
(2) DTV/CBL

ヒント

光デジタル入力(DTV/CBL)端子にDVDプレーヤーを接続した場合、(2)の設定を「DVD/CD」に変更します。

ご注意

OPTICAL IN(1)に割り当てられている端子は、OPTICAL IN(2)で選ぶことはできません。(2)に割り当てたい場合は、(1)の割り当てを変更してください。

COAXIAL IN (3)

同軸デジタル入力端子の割り当てを変更します。

```
COAXIAL IN

→ (3)・・・・・ VIDEO1
        ( VIDEO1 )
```

選択項目: VCR、DTV/CBL、DVD/CD、VIDEO1
初期設定: (3) VCR(VIDEO1)

ヒント

同軸デジタル入力(VIDEO1)端子にDVDプレーヤーを接続した場合、(3)の設定を「DVD/CD」に変更します。

ご注意

OPTICAL IN(1)、(2)に割り当てられている端子は、COAXIAL IN(3)で選ぶことはできません。COAXIAL IN(3)に割り当てたい場合は、OPTICAL IN(1)、(2)の割り当てを変更してください。

電源を入れたときに適用する入力モードを設定する(INPUT MODE)

電源を入れたときに適用する入力モードを設定します。
(MANUAL SETUP→ INPUT MENU→ INPUT MODE)

```
B)INPUT MODE

▶AUTO  LAST  FIX


[<]/[>]:Select
[ENTER]:Return
```

選択項目: AUTO、LAST、FIX
初期設定: AUTO

AUTO:
自動的に入力モードをAUTOに設定します。
LAST:
前回使っていた入力モードを適用します。
FIX:
現在選択中の入力モードに固定し、ボタン操作によるINPUTモードの切り換えを禁止します。その他の設定では、ボタン操作による切り換えが可能です。

そのほかの設定ーOPTION MENU（その他の設定）

ディスプレイの明るさの調節、変更した設定の保護やセットメニューの表示言語などを設定することができます。

表示の設定を変更する（DISPLAY SET）

本体ディスプレイの明るさや、セットメニュー画面の表示位置などを調節します。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→DISPLAY SET）

```
A)DISPLAY SET

→ DIMMER·········0
  MENU SHIFT·····0

  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Select
```

DIMMER

本体ディスプレイ表示の明るさを調節します。
数値が小さいほど、表示が暗くなり、数値が大きいほど、表示が明るくなります。
可変範囲：－4～0
初期設定：0

MENU SHIFT

セットメニュー画面を表示する上下位置を調節します。
可変範囲：－5（上方）～＋5（下方）
初期設定：0

変更した設定値を保護する（MEMORY GUARD）

変更した設定値を保護します。ONに設定すると、誤操作による設定値の変更を防ぐことができます。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→MEMORY GUARD)

```
B)MEMORY GUARD

   ▶OFF   ON


[<]/[>]:Select
[ENTER]:Return
```

選択項目：ON、OFF
初期設定：OFF

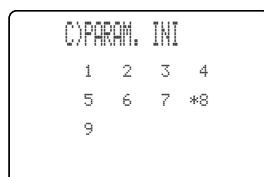
ONに設定すると、以下の設定が保護されます。
- 音場プログラムパラメーターの設定
- 「MEMORY GUARD」以外のセットメニューの設定
- 各スピーカーの音量

ご注意
- ONに設定すると、他のセットメニューは呼び出せません。
- ONに設定すると、テストトーンを使えません。

音場プログラムパラメーターを初期化する（PARAM. INI）

変更した音場プログラムパラメーターを、初期設定に戻します。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→PARAM. INI）

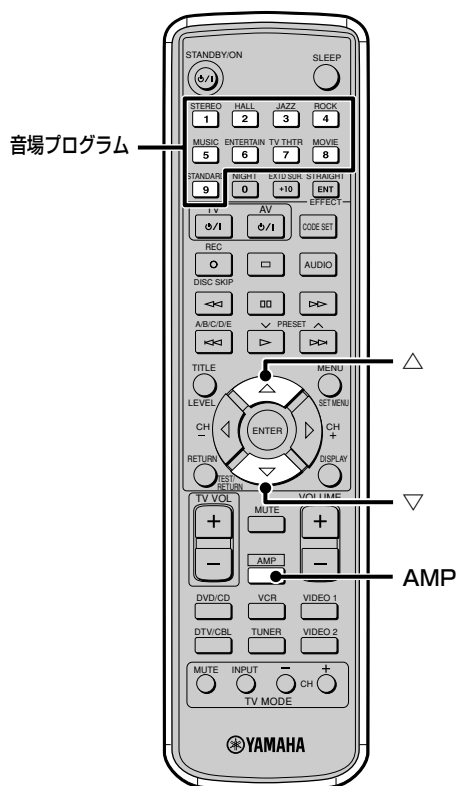
```
C)PARAM. INI

  1   2   3   4
  5   6   7  *8
  9
```

設定が変更されている音場プログラムは、そのプログラム番号のまえにアスタリスク（＊）が表示されます。リモコンの数字/音場プログラムキーで、初期設定に戻したい音場プログラムを選んでください。

ご注意
- 一度初期化すると、初期化前の状態には戻りません。誤って初期化してしまったときのために、パラメーターを変更したときは記録しておいてください。
- サブプログラムごとに、初期設定に戻すことはできません。
- セットメニュー「MEMORY GUARD」をONに設定している場合は、初期設定に戻すことはできません。

オリジナルのリスニング環境をつくる

音場プログラムは音の拡がりや響き具合などのパラメーターという要素で構成されています。世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで音場測定を行い、その実測データをもとに各音場プログラムは作成されており、音場プログラムごとにパラメーターの値や種類を変えてDSP処理が施されます。
このパラメーターを調節して、さらに独自のリスニング環境をつくることができます。

パラメーターを変更する

音場プログラムのパラメーターは、初期設定のままで十分お楽しみいただけます。基本的に設定を変更する必要はありませんが、音場プログラムのパラメーターを調節して、独自の音場効果をお楽しみください。

1. **AMPキーを押す。**
2. **音場プログラムを選ぶ。**
3. **△または▽キーを押して、変更したいパラメーターを選ぶ。**
4. **◁または▷キーを押して、設定を変更する。**
5. **ほかの音場プログラムのパラメーターを変更したいときは、手順 2 ～ 4 を繰り返す。**

注意

- OPTION MENUの「MEMORY GUARD」がONに設定されている場合は、パラメーターを変更できません。パラメーターを変更する前に、OFFに設定してください。→P.66「変更した設定値を保護する(MEMORY GUARD)」
- 音場プログラムによって、調節できる内容が異なります。各パラメーターの説明をご覧ください。→P.68「パラメーターガイド」

パラメーターガイド

音場プログラムごとにDSP処理の構造が違います。音場プログラムによっては設定できないパラメーターがあります。

DSP LEVEL(DSPレベル)

可変範囲: −6〜+3dB

音場プログラムの効果音のレベルを微調節するパラメーターです。

DELAY(ディレイ)

可変範囲: 1〜99ms(信号、音場プログラムにより変わります)

フロントスピーカーから音が出力されるタイミングと、サラウンドスピーカーからサラウンド音が出力されるタイミングとの時間差を調節します。
値を大きくするほどサラウンド音が遅れて出力され、音場空間が大きく感じられます。

5ch Stereo用

CT LEVEL(センター・レベル)

可変範囲: 0〜100%

5ch Stereo音場でのセンターチャンネルの出力レベルを調節します。

SL LEVEL(サラウンド・レフト・レベル)

可変範囲: 0〜100%

5ch Stereo音場でのサラウンドLチャンネルの出力レベルを調節します。

SR LEVEL(サラウンド・ライト・レベル)

可変範囲: 0〜100%

5ch Stereo音場でのサラウンドRチャンネルの出力レベルを調節します。

PRO LOGIC II Music用

PANORAMA(パノラマ)

可変範囲: ON、OFF

DOLBY PRO LOGIC IIのフロント音場の拡がり感を調節します。

DIMENSION(ディメンション)

可変範囲: −3〜STD〜+3

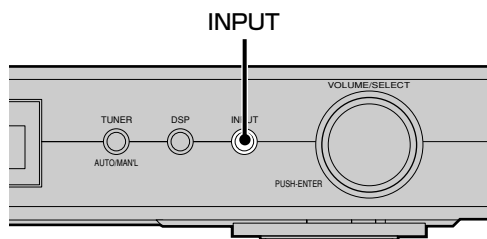
DOLBY PRO LOGIC IIのサラウンド音場のフロント側とサラウンド側のレベル差を調節します。

CT WIDTH(センター・ウィドゥス)

可変範囲: 0〜7

DOLBY PRO LOGIC IIのセンター音声の左右への拡がりを調節します。

入力モードを切り替える

同一の再生機器を本機のデジタル音声入力とアナログ音声入力の両端子に接続している場合に入力モードを切り替えることができます。

AUTO(工場出荷時の設定)の設定のままでほとんどのソースを問題なく再生できますが、必要に応じて入力信号のデジタル、アナログの優先順位を選んだり、AACなどの特定の系統に設定したりすることができます。

お好みの入力モードがディスプレイに表示されるまで、本体のINPUTキーを繰り返し押す。

入力モード

AUTO:　音声信号を自動的に検知します。デジタル信号とアナログ信号が同時に入力された場合、デジタル信号を優先して再生します。
DTS:　DTS信号以外は再生されません。
AAC:　AAC信号以外は再生されません。
ANALOG:　アナログ信号以外は再生されません。

ヒント

- 入力モードがAUTOに設定されているときに、ドルビーデジタルまたはDTS、AAC信号が入力されると、自動的に最適なデコーダーが選ばれます。
- 本機の電源を入れたときに、前回選んだ入力モードをそのまま使うか、AUTOに戻すかをINPUTメニューの「INPUT MODE」で指定することもできます。また、入力端子ごとに入力モードを設定することもできます。→**P.65「電源を入れた時に適用する入力モードを設定する(INPUT MODE)」**

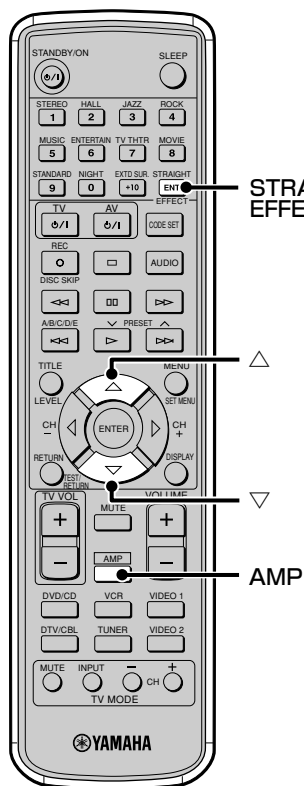
注 意

- 本機と再生する機器をアナログ音声端子だけで接続して入力した場合、入力モードを切り替えることはできません。
- INPUTメニューの「INPUT MODE」でFIXを選んでいるときは、INPUTキーを押しても入力モードを切り替えることはできません。
- 入力モードがAUTOに設定されているときに、次のような症状が起こることがありますが、故障ではありません。
  - ドルビーデジタルまたはDTSディスクを再生中にサーチ(早送り/早戻し)してから再生をはじめると、一部のLDおよびDVDプレーヤーで、再生音が少し遅れて再生される。
  - デジタル録音されていないLDを再生する場合に、一部のLDプレーヤーで音声が正常に再生できない。この場合は入力モードをANALOGに設定してください。
  - DTSディスクを再生中にサーチ(早送り/早戻し)すると、ノイズが断続的に再生される場合がある。この場合は入力モードをDTSに設定してください。

DTS-CD／DTS-LDの再生に関するご注意

- プレーヤーから出力されるデジタル信号に音量レベル可変処理などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTS音声は再生できません。
- DTS音声を再生するには、音声を再生する機器をデジタル入力端子に接続して、入力モードをAUTOまたはDTSに設定してください。入力モードをANALOGに設定して再生すると、雑音が発生することがあります。
- DTS音声を再生中に入力モードをANALOGに切り替えると、音声は出力されません。
- 入力モードをAUTOに設定してDTS音声を再生すると：
  - DTS信号を検知すると、自動的にDTSモード（dts表示が点灯）に切り替わります。DTS音声の再生が終了したときに、dts表示が点滅することがありますが、点滅中はDTS音声しか再生できません。DTS音声の再生が終了後すぐに、通常のPCM音声を再生したいときは、入力モードをAUTOに設定しなおしてください。
  - プレーヤー側でサーチまたはスキップ操作をしてDTS信号がとぎれると、dts表示が点滅することがあります。この状態が30秒以上続くと、自動的にDTSモードから通常のデジタル（PCM）入力に切り替わり、dts表示は消灯します。

入力信号情報を表示する

ステレオ再生中、入力信号のタイプ、フォーマットやサンプリング周波数などの情報をディスプレイに表示させて確認することができます。

1 **ソースを再生する**

2 **AMPキーを押す。**

3 **STRAIGHT/EFFECTキーを押す。**
本体ディスプレイに「STRAIGHT」と表示されます。

4 **△または▽キーを押す。**
入力信号の情報が表示されます。信号によっては押すたびに情報の表示が切り替わります。

入力信号情報の見方

(Format)：入力信号の信号フォーマット。

入力信号	表示
アナログ音声	ANALOG
PCM音声	PCM
ドルビーデジタル音声	Dolby Digital
DTS音声	DTS
AAC音声	AAC
不明なデジタル信号	Unknwn Digital

in：　入力信号の音声チャンネル数（ドルビーデジタル、DTS、AAC入力時のみ）。
例えば、「in:3/2/LFE」と表示された場合は、「フロント3チャンネル/サラウンド2チャンネル/LFE」を示しています。
また、二カ国語放送などの主＋副の2チャンネル音声は「1+1」、3音声以上の音声多重形式の音声は「MLT」と表示されます。

fs：　入力信号のサンプリング周波数（デジタル信号入力時のみ）。サンプリング周波数が不明の場合は、「unknown」と表示されます。

rate：　入力信号の1秒あたりのデータ量=ビットレート（ドルビーデジタル、DTSのみ）。ビットレートが不明の場合は、「unknown」と表示されます。

flg：　入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号=フラグ（ドルビーデジタル、DTSのみ）。フラグが認識できなかった場合は、「None」と表示されます。

スピーカーの音声出力レベルを調節する

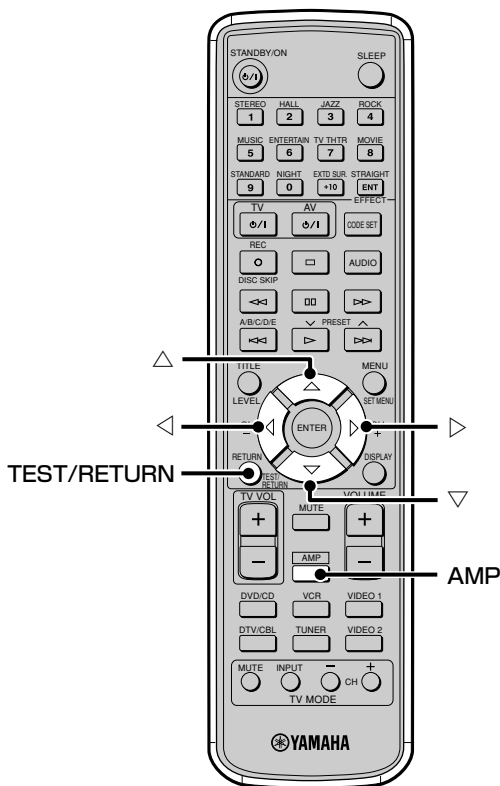
BASICメニューで各スピーカーの音量の確認や調節が済んでいる場合は必要ありませんが、スピーカーの設置場所を変えたり家具の位置を変えたとき、またはSOUNDメニューの設定を変更したときは、テストトーンを出して各スピーカーの音量を調節することをおすすめします。

また、BASICメニューの設定を行わずにSOUNDメニューだけでスピーカーの設定を行った場合は、必ずテストトーンを出して各スピーカーの音量調節をしてください。

この調節は音場プログラムの効果を最大限に引き出したり、ドルビープロロジック、ドルビープロロジックII、ドルビーデジタルやDTS、AACサウンドを忠実に再現するための重要なポイントになります。

テストトーンで調節したあとでも、ソースによっては再生中にスピーカーの音量レベルを調節したい場合があるかもしれません。そのときは「再生しながら調節する」(→P.73)をご覧ください。

テストトーンを使って調節する

テストトーンを使って、リスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音量が一定になるように調節します。

1 AMPキーを押す。

2 TEST/RETURNキーを押す。
テストトーンが出力されます。

3 △または▽キーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ。
▽キーを押すごとに、下記の順に調節するスピーカーが切り替わります。
TEST LEFT(フロントL)→TEST CENTER(センター)→TEST RIGHT(フロントR)→TEST SUR. R(サラウンドR)→TEST SUR. L(サラウンドL)→TEST SUBWOOFER(サブウーファー)→...
△キーを押すと、逆の順に切り替わります。

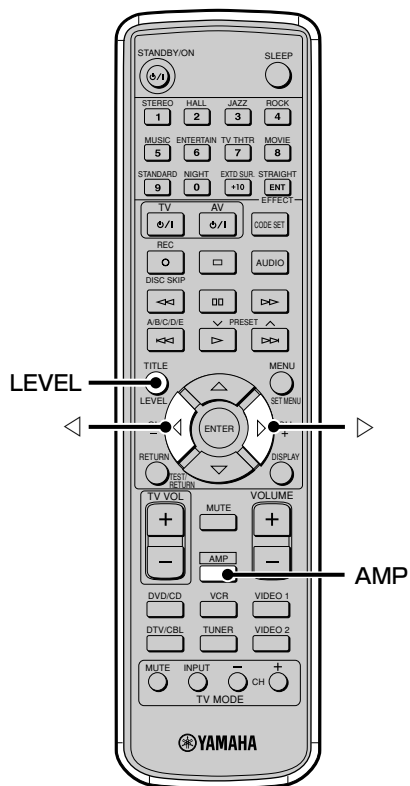
4 ◁または▷キーを押して、スピーカーの音量を調節する。

5 調節が終わったら、TEST/RETURNキーを押す。
テストトーンが止まります。

注意

- ヘッドホンを接続していると、テストモードに入れません。PHONES (SILENT CINEMA)端子からヘッドホンを抜いてください。
- 調節できないスピーカーがある場合は、SOUNDメニューの「SPEAKER SET」でスピーカーモードの設定がNoneになっていないか確認してください。
- SOUNDメニューの「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」がFrontに設定されている場合、サブウーファーの音量は調節できません。
- テストトーンで調節したスピーカーの音量は、BASICメニューで設定変更し、Setを選ぶと無効になります。調節後はBASICメニューに入らないようご注意ください。あやまってBASICメニューに入った場合は、Cancelを選んで、メニューから抜けてください。→P.29「操作の流れ」

再生しながら調節する

再生音を聴いていて、スピーカーのバランスが良くないと感じたら、各スピーカーの音量レベルを調節します。

1. **AMPキーを押す。**

2. **LEVELキーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ。**
LEVELキーを押すごとに、下記の順に調節するスピーカーが切り替わります。
FRONT L(フロントL)→CENTER(センター)→FRONT R(フロントR)→SUR. R(サラウンドR)→SUR. L(サラウンドL)→SWFR(サブウーファー)→FRONT L(フロントL)→...

ヒント

- LEVELキーでレベル表示にすると、△または▽ キーでもスピーカーを選べます。

3. **◁または▷キーを押して、スピーカーの音量を調節する。**
全てのスピーカーの調節範囲は、−10〜+10dBです。

注 意

- 調節できないスピーカーがある場合は、SOUNDメニューの「SPEAKER SET」でスピーカーモードの設定がNoneになっていないか確認してください。
- SOUNDメニューの「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」がFrontに設定されている場合、サブウーファーの音量は調節できません。
- LEVELキーでスピーカーの音量を調節すると、テストトーンで調節したスピーカーの音量も変更されます。
- LEVELキーで調節したスピーカーの音量は、BASICメニューで設定変更し、Setを選ぶと無効になります。調節後はBASICメニューに入らないようご注意ください。あやまってBASICメニューに入った場合は、Cancelを選んで、メニューから抜けてください。→**P.29「操作の流れ」**

リモコンを使いこなす

リモコンコード(各メーカーごとに割り当てられた信号)を本機のリモコンに設定すると、接続したテレビやビデオデッキ、DVDプレーヤーを本機のリモコンで操作できます。

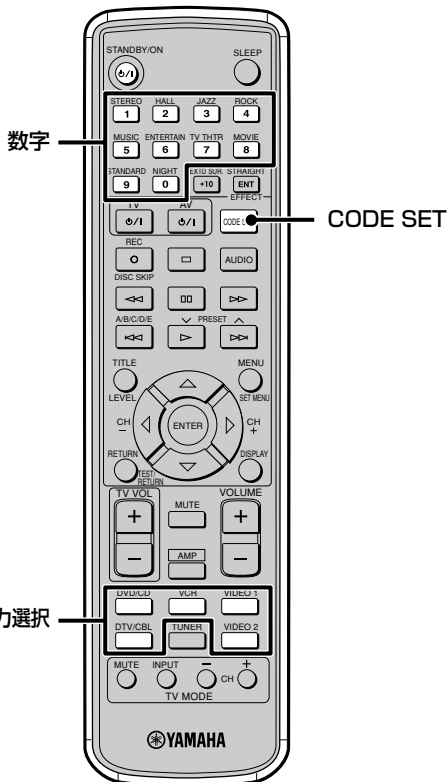
注 意

- 機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。その場合はテレビやビデオデッキ、DVDプレーヤー専用のリモコンをお使いください。

リモコンにリモコンコードを設定する

TUNERキー以外の入力選択キーに以下のリモコンコードを設定できます。

入力選択キー	設定できるリモコンコード
DTV/CBLキー	テレビまたは 衛星放送／CATVチューナー
DVD/CDキー VCRキー VIDEO 1キー VIDEO 2キー	ビデオデッキまたは DVDプレーヤー

リモコンコードを設定すると、「操作できる機能一覧」(→P.76)の操作が可能になります。

1 CODE SETキーを押したまま、入力選択キーを押す。

1つのキーに1つのリモコンコードが設定できます。

注 意

- 手順 1 ～ 2 の間はCODE SETキーを押したまま操作してください。

2 CODE SETキーを押したまま、使用する機器のリモコンコード(3桁)を数字キーで入力する。

「リモコンコード一覧」(→P.85)をご覧ください。

ヒント

- 設定に成功すると、「Code Set OK」がディスプレイに表示されます。失敗すると「Code Set NG」が表示されるので、手順 1 からもう一度操作してください。

注 意

- 何も操作しないまま10秒間放置すると、設定が中断されます。このような場合は、手順 1 からもう一度設定をやりなおしてください。

ヒント

- 次の入力選択キーには工場出荷時にあらかじめヤマハのリモコンコードが設定されています。
  DTV/CBLキー:テレビのリモコンコード299
  VCRキー:ビデオデッキのリモコンコード399
  DVD/CDキー: DVDプレーヤーのリモコンコード699
  ヤマハの機器をお使いの場合は、まず工場出荷時のまま操作してみてください。

注 意

- お使いのヤマハ機器によっては、あらかじめ設定されているヤマハのリモコンコードで操作できない場合があります。この場合はヤマハの別のリモコンコードをお試しください。

リモコンを工場出荷時の設定に戻す

設定したリモコンコードを取り消すことができます。

1 CODE SETキーを押したまま、設定を戻したい入力選択キーを押す。

2 CODE SETキーを押したまま、次の3桁の数字を数字キーで入力する。

テレビまたは衛星放送／CATVチューナーのリモコンコードを設定したとき：299

ビデオデッキのリモコンコードを設定したとき：399

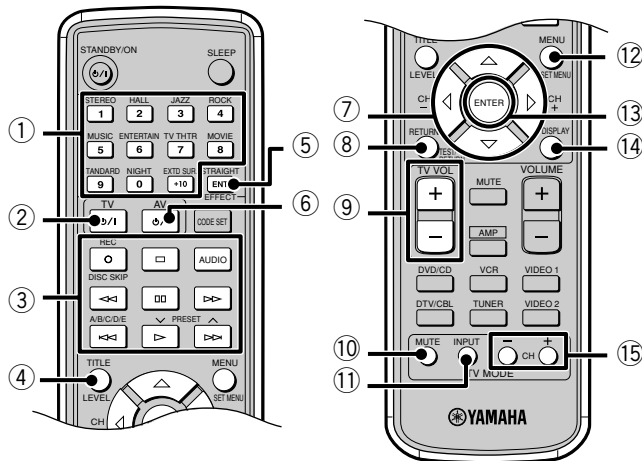
DVDプレーヤーのリモコンコードを設定したとき：699

注 意

- 何も操作しないまま10秒間放置すると、設定が中断されます。このような場合は、手順 1 からもう一度やりなおしてください。

リモコンコードの保持について

乾電池は、使えなくなる前に早めに交換してください。乾電池の寿命がなくなったり、乾電池を取り出した場合、お客様ご自身で設定されたリモコンコードは約2分間保持されますが、2分以上経過すると消えてしまうことがありますのでご注意ください。また、このときリモコンのキーを誤って押すと、リモコンコードが消えてしまうことがありますのでご注意ください。

操作できる機能一覧

リモコンコードを設定すると、①～⑮のキーの機能がテレビ、衛星放送／CATVチューナー、ビデオデッキ、DVDプレーヤー操作用に切り替わります。
はじめにリモコンコードを設定した入力選択キーを押し、各機器を操作してください。操作できる機能については以下の表をご覧ください。

注 意

- ご使用の機器によっては、キーと操作の説明が一致しないことがあります。

	操作できる機能			
リモコンのキー	DVDプレーヤー	ビデオデッキ	テレビ、衛星放送／CATVチューナー	本機のチューナー
① 1～9、0、＋10	数字キー	数字キー	数字キー	登録局選択（1～8）
② TV	（テレビ）POWER*1	（テレビ）POWER*1	POWER*2	（テレビ）POWER*1
③ REC/DISC SKIP	ディスクスキップ	録画	（ビデオデッキ）録画*3	—
◁◁	早戻し	巻戻し	（ビデオデッキ）巻戻し*3	—
▷▷	早送り	早送り	（ビデオデッキ）早送り*3	—
AUDIO	オーディオメニュー	—	—	—
▯▯	一時停止	一時停止	（ビデオデッキ）一時停止*3	—
I◁◁	チャプタースキップ（−）	—	—	A/B/C/D/E
▷▷I	チャプタースキップ（＋）	—	—	登録局選択（＋）
□	停止	停止	（ビデオデッキ）停止*3	—
▷	再生	再生	（ビデオデッキ）再生*3	登録局選択（−）
④ TITLE	タイトルメニュー	—	—	—
⑤ ENT	タイトル／インデックス表示	—	数字キー（12）	—
⑥ AV	POWER*2	POWER*2	（ビデオデッキ）POWER*3	—
⑦ △	選択（上へ）	—	—	—
▽	選択（下へ）	—	—	—
CH ＋▷	選択（右へ）	チャンネル選択（＋）	—	—
CH −◁	選択（左へ）	チャンネル選択（−）	—	—
⑧ RETURN	前の画面へ戻る	—	—	—
⑨ TV VOL ＋	（テレビ）音量（＋）*1	（テレビ）音量（＋）*1	音量（＋）	（テレビ）音量（＋）*1
TV VOL −	（テレビ）音量（−）*1	（テレビ）音量（−）*1	音量（−）	（テレビ）音量（−）*1
⑩ TV MUTE	（テレビ）消音*1	（テレビ）消音*1	消音	（テレビ）消音*1
⑪ TV INPUT	（テレビ）入力切替*1	（テレビ）入力切替*1	入力切替	（テレビ）入力切替*1
⑫ MENU	メニュー	—	—	—
⑬ ENTER	メニュー決定	—	—	—
⑭ DISPLAY	ディスプレイ表示	—	—	—
⑮ TV CH ＋	（テレビ）チャンネル選択（＋）*1	（テレビ）チャンネル選択（＋）*1	チャンネル選択（＋）	（テレビ）チャンネル選択（＋）*1
TV CH −	（テレビ）チャンネル選択（−）*1	（テレビ）チャンネル選択（−）*1	チャンネル選択（−）	（テレビ）チャンネル選択（−）*1

*1 DTV/CBLキーにテレビのリモコンコードが設定されているときは、入力を切り替えなくてもテレビを操作できます。
*2 機器のリモコンにPOWERキーがあるときのみ、機能します。
*3 VCRキーにビデオデッキのリモコンコードが設定されているときは、入力を切り替えなくてもビデオデッキを操作できます。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に動作しない場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

全般

電源を入れてもすぐに切れてしまう

原因 1 電源コードの接続が不完全。

解決方法 電源コードをACコンセントにしっかりと差し込んでください。(→P.27)

原因 2 （再度電源を入れたときに「CHECK SP WIRES」と表示される場合）スピーカーコードがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。

解決方法 すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。(→P.18)

原因 3 内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。

解決方法 ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。

電源スイッチを押しても電源が入らない

原因 1 電源コードの接続が不完全。

解決方法 電源コードをACコンセントにしっかりと差し込んでください。(→P.27)

原因 2 内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。

解決方法 ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。

使用中に突然電源が切れる

原因 機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。

解決方法 温度が下がるのを待って、電源を入れなおしてください。

音声や画像が出ない

原因 1 接続が不完全。

解決方法 接続を確認してください。(→P.19)

原因 2 再生するソースの選択が適切でない。

解決方法 入力機器を正しく選んでください。(→P.32)

原因 3 スピーカーの接続が不完全。

解決方法 接続を確認してください。(→P.18)

原因 4 音量が絞られている。

解決方法 音量を大きくしてください。(→P.33)

原因 5 消音されている。

解決方法 リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/－キーを押して消音を解除してください。(→P.33)

音声が突然出なくなる

原因 1 機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。

解決方法 温度が下がるのを待って、電源を入れなおしてください。

原因 2 スリープタイマーが作動した。

解決方法 電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。

原因 3 消音した。

解決方法 リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/－キーを押して消音を解除してください。(→P.33)

片側のチャンネルの音声がほとんど出ない

原 因 接続が不完全。

解決方法 接続を確認してください。また、スピーカーケーブルが断線していないか確認してください。(→P.18)

エフェクトスピーカー(センター、サラウンドL/R)から音声が出ない

原 因 1 ステレオ再生をしている(ディスプレイにSTRAIGHT表示が点灯している)。

解決方法 STRAIGHT/EFFECTキーを押して、音場効果をオンにしてください。(→P.54)

原 因 2 ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号でエフェクトチャンネル信号が入っていないソースを再生している。

解決方法 別の音場プログラムを選んでください。(→P.37)

センタースピーカーから音声が出ない

原 因 1 センタースピーカーのレベルが絞られている。

解決方法 センタースピーカーのレベルを上げてください。(→P.72)

原 因 2 SOUNDメニューの「SPEAKER SET」の「CENTER SP」がNONEに設定されている。

解決方法 センタースピーカーモードを正しく設定してください。(→P.60)

原 因 3 Hi-Fi DSP音場プログラムの「CONCERT HALL」、「JAZZ CLUB」、「ROCK CONCERT」、「ENTERTAINMENT」を選んでいる(「5ch Stereo」と「Game」は除く)。

解決方法 DSP処理の仕様により、入力信号のフォーマットによっては、センタースピーカーからの音声出力がない場合があります。

サラウンドL/Rスピーカーから音声が出ない

原 因 1 サラウンドL/Rスピーカーのレベルが絞られている。

解決方法 サラウンドL/Rスピーカーのレベルを上げてください。(→P.72)

原 因 2 SOUNDメニューの「SPEAKER SET」の「SURR L/R SP」がNONEに設定されている。

解決方法 サラウンドスピーカーモードを正しく設定してください。(→P.61)

原 因 3 音場プログラム9(STANDARD)で、モノラルソースを再生している。

解決方法 別の音場プログラムを選んでください。(→P.37)

サブウーファーから音声が出ない

原 因 1 SOUNDメニューの「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」をFrontに設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。

解決方法 SWFRまたはBothに設定してください。(→P.61)

原 因 2 SOUNDメニューの「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」をSWFRまたはFrontに設定したまま、2チャンネル信号を再生している。

解決方法 Bothに設定してください。(→P.61)

原 因 3 再生しているソースにLFEや低音信号(90Hz以下)が含まれていない。

ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない(本機のディスプレイのドルビーデジタルまたはDTS表示が点灯しない)

原 因 1 接続したプレーヤーなどの音声出力設定がドルビーデジタルまたはDTS信号のままデジタル出力されるように設定されていない。

解決方法 お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。

原 因 2 本機とプレーヤーが OPTICAL または COAXIAL によるデジタル接続がされていない。

解決方法 デジタル接続をしてください。(→P.19)

原 因 3 本機のInput ModeがAnalogになっている。

解決方法 AUTOまたはdtsならばDTSに設定してください。(→P.69)

低音の再生不良

原因 サブウーファーを使用していないのに、SOUNDメニューの「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」をSWFRまたはBothに設定している。

解決方法 Frontに設定してください。(→P.61)

ハム音が出る

原因1 SOUNDメニューの各スピーカーモードがスピーカー構成に一致していない。

解決方法 各スピーカーモードを適切に設定してください。(→P.58)

原因2 ステレオピンケーブルの接続が不完全。

解決方法 ステレオピンケーブルをしっかり差し込んでください。(→P.20)

音量を上げることができない、または音が歪んでいる

原因 本機のVCR OUT端子に接続された機器の電源が入っていない。

解決方法 AVアンプという製品ジャンルの特性上、VCR OUT端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。

サラウンドと音場効果を付加した音を録音できない

原因 サラウンドと音場効果を付加した音は録音できません。

録音できない

原因 本機と再生機器および録音機器がアナログ接続されていない。

解決方法 アナログ接続をしてください。(→P.19)

セットメニューを設定できない

原因 OPTIONメニューの「MEMORY GUARD」がONに設定されている。

解決方法 OFFに設定してください。(→P.66)

セットメニューなどの設定内容が消えている

原因 1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっていた。

解決方法 1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度設定しなおしてください。

本機が正常に作動しない

原因 内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。

解決方法 ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。

本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む

原因 本機の電源がスタンバイ状態になっている。

解決方法 本機の電源を入れてください。(→P.27)

デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている

原因1 本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。

解決方法 本機をそれらの機器から離して設置してください。

ファンが回る音がときどき聞こえる

原因 放熱のため、本機内部にはファンが取り付けられています。本機内部の温度が上昇したとき、または電源を入れたときなどに動作します。

FM／AM放送の受信

FM／AM

プリセット選局ができない

原因 プリセット(メモリー)が消えている。

解決方法 1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度プリセットしてください。(→P.39)

FM

ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい

原因 FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。

解決方法 **1** アンテナの接続を確認してください。(→P.25)

解決方法 **2** 屋外アンテナを多素子のものに変えてください。

解決方法 **3** マニュアル選局をしてください。(→P.38)

FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い

原因 マルチパス(多重反射)などの妨害電波を受けている。

解決方法 アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。

オート選局ができない

原因 FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。

解決方法 **1** マニュアル選局をしてください。(→P.38)

解決方法 **2** 屋外アンテナを多素子のものに変えてみてください。

AM

オート選局ができない

原因 電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。

解決方法 **1** AMループアンテナの方向を変えてください。(→P.26)

解決方法 **2** マニュアル選局をしてください。(→P.38)

「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る

原因 空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。

解決方法 AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。

「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る

原因 本機の近くでテレビを使用している。

解決方法 本機からテレビを離してください。

雑音が入る

原因 **1** AMループアンテナをスピーカーケーブルの近くに置いている。

解決方法 AMループアンテナをスピーカーケーブルから離してください。

原因 **2** AM端子とGND端子のコードが逆になっている。

解決方法 AM端子に白いコードを、GND端子に黒いコードを差し込んでいるか確かめてください。

リモコン

リモコンで操作できない

原因 1 リモコン操作範囲から外れている。

解決方法 本体のリモコン受光部から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください。(→P.12)

原因 2 受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯やストロボライトなど)が当たっている。

解決方法 照明、または本体の向きを変えてください。

原因 3 乾電池が消耗している。

解決方法 乾電池をすべて交換してください。(→P.11)

接続した機器がリモコンで操作できない

原因 1 操作する機器が選ばれていない。

解決方法 入力選択キーを押して、操作したい機器を選んでください。(→P.74)

原因 2 リモコンコードが正しく設定されていない。

解決方法 リモコンコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。(→P.74)

原因 3 リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。

用語解説

あ

音場
「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。
コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聞こえてくる「直接音」のほかに、床や壁、天井などに一回反射してから聞こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰していく「後部残響音」を聞くことになります。
建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類等によって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。

さ

サイレントシネマ
ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

サンプリング周波数／量子化ビット数
アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といい、音の大きさを数値化するときのきめの細かさを量子化ビット数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まります。原理的には、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

シネマDSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）
ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組みあわせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

た

ドルビーサラウンド
ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、左右2つのフロントチャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

ドルビーデジタル
ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロントの3チャンネル（フロントL／R、センター）と、サラウンドのステレオ2チャンネル、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンドがステレオ 2チャンネルで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビープロロジックII
2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモード、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の2チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

は

バーチャルシネマDSP
サラウンドスピーカーを設置していなくても、仮想的にサラウンドスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。センタースピーカーを設置できない場合でも、フロントL／Rの2スピーカーシステムでバーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

A

AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)

MPEG-2オーディオ規格の1つで、BSデジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。本機はAACデコーダーを搭載しているので、BSデジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード(復調)して再生できます。

D

DTS(デジタル・シアター・システムズ)デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。この技術を家庭用に調整したものが、本機で採用しているDTSシステムです。極めて劣化が少なく、クリアな音質の5チャンネル(フロントL/R、センター、2つのサラウンドチャンネル)、さらにサブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネルで構成されています。

L

LFE(ローフリケンシーエフェクト)0.1チャンネル

音声成分の帯域が20〜120Hzの、低音域専用チャンネルです。ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

P

PCM(リニアPCM)

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDやDVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える(サンプリング)手法を用いています。

主な仕様

オーディオ部

定格出力(1kHz、0.9% THD、6Ω)
- フロントL/R ..... 70W+70W
- センター 70W
- サラウンドL/R ..... 70W+70W

実用最大出力(EIAJ、1kHz、10% THD、6Ω)
- フロントL/R 100W
- センター 100W
- サラウンドL/R 100W

入力感度/インピーダンス
- DVD/CD他 200mV/47kΩ

出力電圧/インピーダンス
- VCR OUT 200mV/820Ω
- SUBWOOFER 2.0V/1.2kΩ
- ヘッドホン出力 100mV/100Ω

周波数特性(DVD/CD他－フロントL/R)
..... 20Hz～50kHz、0/－3dB

全高調波歪率(DVD/CD他－フロントL/R)
- 1kHz、35W、6Ω 0.04%以下

S/N比(IHF-Aネットワーク、入力ショート)
- DVD/CD(250mV)－フロントL/R
..... 100dB以上

残留ノイズ(IHF-Aネットワーク)
- フロントSP OUT 150μV以下

チャンネルセパレーション
(5.1kΩターミネート、1kHz/10kHz)
- DVD/CD他 60dB以上/45dB以上

トーンコントロール
- BASS ..... ±10dB/60Hz
- TREBLE ..... ±10dB/20kHz

ビデオ部

ビデオ信号方式 ..... NTSC
S/N比 50dB以上
周波数帯域(映像出力) ..... 5Hz～10MHz/－3dB

FMチューナー部

受信周波数 ..... 76.0MHz～90.0MHz
実用感度(IHF) ..... 2.8μV(20.2dBf)
S/N比(IHF)
- モノ 73dB
- ステレオ 70dB

歪率(1kHz)
- モノ 0.5%
- ステレオ 0.5%

AMチューナー部

受信周波数 ..... 531kHz～1611kHz

総合

電源電圧 ..... AC100V、50/60Hz
消費電力 130W
待機時消費電力 0.8W
寸法(幅×高さ×奥行き) ... 435×55.5×325mm
質量 6.4kg

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。

JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3-2部:限度値－高調波電流発生限度値(1相当あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

リモコンコード一覧

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のリモコンコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。設定方法については「リモコンにリモコンコードを設定する」(→P.74)を参照してください。

テレビ、衛星放送／CATVチューナー（国内での使用には太字のコードをお薦めします。）

メーカー名	リモコンコード				
ヤマハ	299	292			
Admiral	292	293			
アイワ	**276**	**283**	**284**	294	
Akai	295	296			
Alba	296				
AOC	297				
Bell＆Howell	292				
Bestar	298				
Blaupunkt	229	222			
Blue sky	298				
Brandt	223				
Brocsonic	297				
Bush	296				
Candle	297				
Citizen	297				
Clatronic	298				
Craig	224				
Croslex	225				
Curtis Mathis	297	226			
Daewoo	297	298	224	227	228
Daytron	239				
Dual	298				
Emerson	297	224	239	232	
Ferguson	223	265	266		
First line	298				
Fisher	295	233			
Fraba	298				
フナイ	**277**	**278**			
GE	293	297	234	235	236
Gibralter	297				
Goodmans	296	298	223		
Grundig	229	238	249		
日立	**285**	297	239	242	243
ICE	296				
Irradio	296				
Itt／Nokia	244	245			
JC Penny	293	297	234	237	
JVC(ビクター)	**286**	296	246	247	
Kendo	298				
KTV	297	239			
Loewe	298	248			
LXI	293	297	225	226	233
Magnavox	297	225	239		
Matsui	295				
三菱	**287**	299	297	259	

メーカー名	リモコンコード						
NEC	**282**	297	252				
Nokia	244	245					
Nokia Oceanic	245						
Nordmende	265	266					
Onwa	296						
パナソニック	**288**	**211**	234	235	236	253	
Philco	297	225	239				
Philips	225						
パイオニア	**254**	226	235	255	268		
Portland	297	256					
Quasar	234	235					
Radio Shack	299	293	297				
RCA	293	297	234	256	257	258	
SABA	223	269	265	266			
Samsung	297	239	248	262	275		
サンヨー	**273**	**212**	295	233	279	272	274
Schneider	296						
Scott	297						
シャープ	**213**	**216**	292	239	232		
Siemens	229						
Signature	292						
ソニー	**214**	263					
Telefunken	269	264	265	266			
Thomson	223	266					
東芝	**215**	292	226	267			
Videch	297	242					
Wards	297	239	232				

ビデオデッキ

メーカー名	リモコンコード				
ヤマハ	399	392	393	394	
Admiral	395				
アイワ	396	397	398	329	339
Akai	322	323	324		
Audio Dynamic	392	394			
Bell&Howell	393				
Blaupunkt	325	326			
Brocsonic	327				
Bush	322				
Canon	325	328			
CGM	396	332			
Citizen	396				
Craig	396				
Curtis Mathis	397	328	333		
Daewoo	328	334	335		
DBX	392	394			
Dimensia	333				
Emerson	327	334			
Fisher	393	336			
フナイ	397				
GE	328	333	387	363	
Goodmans	334	337			
Grundig	332	338			

メーカー名	リモコンコード							
日立	325	333	349	342	343			
Instant Replay	325	328						
Itt／Nokia	393							
JCL	328							
JC Penny	392	393	394	328	333	349		
JVC(ビクター)	392	394	344	345	346	347		
Kendo	396							
Kenwood	392	394	396					
LG／Goldstar	396	388						
Loewe	396	337						
Luxor	395							
LXI	393	396	397	336	349			
Magnavox	325	326	328					
Marantz	392	394	328					
Marta	396							
Matsui	396							
Memorex	328	336						
Minolta	333	349						
三菱	399	344	348	359	352	353		
Multitech	397	348	354					
NEC	392	394	344	383				
Nokia	393	395						
Nokia Oceanic	395							
Okano	323							
Olympic	325	328						
Orion	327							
パナソニック	325	328	355	384	385	386		
Pentax	333	349						
Philco	325	328						
Philips	325	326	328	337	356	357		
Phonola	337							
パイオニア	325							
Quasar	325	328						
RCA／PROSCAN	325	326	328	333	335	349	358	
Realistic	393	397	328	336	359	362		
Samsung	354	358	363	364	365	366		
Sansui	394							
サンヨー	393	336	367					
Schneider	337							
Scott	399	335	336	348	359	352	354	358
Sears	328	342	396					
Seleco	322							
シャープ	395	362	382					
Siemens	393							
Signature 2000	395	397						
ソニー	368	379	372	373	374	375		
Sylvania	397	325	326	328				
Symphonic	397							
Tandberg	334							
Tashiro	396							

メーカー名	リモコンコード							
Tatung	392	394						
Teac	392	394	397					
Technics	325	328						
Teknika	328	396	397					
Telefunken	376	377						
Thorn	393	396						
東芝	335	389						
Universum	396	327	376					
W.WHouse	396							
Wards	395	396	336	362	328	342	363	397

DVDプレーヤー

メーカー名	リモコンコード		
ヤマハ	699	622	623
デノン	623	624	
フナイ	625		
日立	626		
JVC(ビクター)	627		
ケンウッド	628		
LG／Goldstar	645		
三菱	629		
オンキョー	632	633	634
パナソニック	623	635	
Philips	699	647	
パイオニア	636	637	638
RCA	639		
Samsung	642		
シャープ	643		
ソニー	644		
Thomson	646		
東芝	634	648	649

索引

ア行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

A、B、C、D、E、F

G、H、I、J、K、L

M、N、O、P、Q、R

S、T、U、V、W、X、Y、Z

ディスプレイ（アルファベット順）

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●ヤマハ電気音響製品サービス拠点

北海道　〒064-8543　札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙　台　〒984-0015　仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏　〒143-0006　東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜　松　〒435-0016　浜松市和田町200 ヤマハ㈱和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋　〒454-0058　名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ㈱名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大　阪　〒565-0803　吹田市新芦屋下1-16ヤマハ㈱千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

四　国　〒760-0029　高松市丸亀町8-7
㈱ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九　州　〒812-8508　福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用の製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

● 保証期間
お買い上げ日より1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

- ◆ **技術料**　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- ◆ **部品代**　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- ◆ **出張料**　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 持ち込み修理のお願い
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

製品の機能や取扱いに関するお問い合わせは、お客様ご相談センターにご連絡ください。

お客様ご相談センター

TEL　(0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL (053) 460 - 3409

FAX　(053) 460 - 3459
住所　〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1
ご相談受付時間　10:00～12:00、13:00～18:00
（日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。）

製品の機能や取扱いに関する情報は、下記のホームページからも入手することができます。

ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ
http://www.yamaha.co.jp/audio/

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1